
僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！～王国に迫る危機～

i z u m i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！〜王国に迫る危機〜

【Nコード】

N7073X

【作者名】

izumi

【あらすじ】

「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！」第3弾！今回の舞台はとある王国！平和でのどかな王国に危機が迫る…。そして、裏で暗躍する謎の人物の正体は！？果たして、逃走者たちは、無事、ハンターから逃げ切り、賞金を獲得できるのか！？

プロローグ(前書き)

はい、どうもいぬむいです！

ついに始まった「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！」
第3弾！

今回も頑張っていきますのでよろしくお願いします！

プロローグ

此処はとあるビルの一室。そこには今宵がいた。

今宵「やはりゲームマスターを任されるのは緊張するものだな……。」

そして今宵はモニターを確認した。

今宵「さて…今回も楽しませてくれよ……。」

今、今宵が見ているモニターには……。

『the city』

『the eed』

『the kingda』

『night amusement park』

の4つが表示されている。

今宵「では、ゲームスタートだ。」

今宵は表示されているうちの『the kingdom』をためら
いもなく押した…。

ブログ（後書き）

活動報告でも書いたとおり、今はいろいろバタバタしています。

なので今のところは投稿ペースが遅くなると思います。

でも頑張って投稿していきます！

なのでよろしくお願いします！

逃走者紹介（前書き）

今回の逃走中に参加する逃走者たちです。

前回の人数よりは少ないです。

訂正 一部の逃走者の説明を変えました。

ある程度は他の作者さんからの逃走者紹介を参考にしています。
特にぶよぶよ勢）

逃走者紹介

逃走者紹介

『魔法少女リリカルなのはStrikerS』

高町なのは

「エース・オブ・エース」の称号を持つ若手トップエリート魔導師。前々回参加した時はヘリに見つかり確保された。今回もミッションには積極的に参加する。

フェイト・T・ハラオウン

なのはの幼馴染で親友。

前々回は前半のあたりで確保された。今回は長く生き残りたいと思っっている。

八神はやて

守護騎士ヴォルケンリッターを従える魔導騎士。

前々回はミッション3の途中で確保された。

シグナム

ヴォルケンリッターの将。責任感が強く、ミッションには絶対に向かう。足はかなり速い。

ヴィータ

ヴォルケンリッターの一人。足は遅く、ミッションは他人任せ。

シャマル

ヴォルケンリッターの一人。足は遅いがミッションには向かう。

スバル・ナカジマ

機動六課に所属している少女。ミッションには向かう。足はかなり速い。

ティアナ・ランスター

スバルのパートナー。足は速いが、ミッションには向かわない。

『とある魔術の禁書目録』

上条当麻

学園都市に住む右手に「幻想殺し（イマジンブレイカー）」の力を持つ少年。

今回は装置を止められず、ハンターに確保された。ミッションには向かう。

インデックス

魔術師の少女。前回はいい所を見せられず、確保された。
今回もミッションには向かわない。

御坂美琴

レールガン
超電磁砲の異名を持つ少女。前はハンターと鉢合わせになり、確保された。

ミッションには絶対に向かう模様。

白井黒子

常盤台中学校の1年生で第177支部所属の「ジャッジメント風紀委員」。
足は速く、ミッションには参加する。

『東方Project』

博麗霊夢

幻想郷で一番強いと言われている博麗神社の巫女。足は普通で、ミッションには行く。

霧雨魔理沙

幻想郷の魔法の森に住む魔法使い。足は速く、ミッションにも向かう。

十六夜咲夜

紅魔館のメイド長。身体能力は高く、ミッションにも向かう。

レミリア・スカーレット

紅魔館の主人で吸血鬼のお嬢様。足は普通で、ミッションは行く。

フランドール・スカーレット

レミリア・スカーレットの妹。足は普通で、ミッションは他人任せ。

アリス・マーガトロイド

魔法の森に住む魔法使い。足は普通で、ミッションは行かない。

『大乱闘スマッシュブラザーズX』

マリオ

おなじみのスーパースター。

前は1stステージを突破するも2ndステージのミッション5の途中で確保。

今回も頑張りたいと思っている。

ルイーダ

マリオの弟。前はハンターに見つかり、確保された。

今回もハンターが怖いのでミッションには行かない。

アイク

グレイグ傭兵団の団長を務める剣士。

今回はミッション5の途中で確保。

今回は三度目の正直と言うことを信じて逃走成功を狙う。

スネーク

「不可能を可能にする男」と呼ばれる男。

今回はミッション3の途中で確保された。今回は逃げ切って逃走成功を狙う。

『ぶよぶよ』

アルル

遠い世界から飛ばされた魔導師見習いの女の子。足は速く、ミッションにも積極的。

シエゾ・ウィグイイ

アルルの魔導の力を狙う闇の魔導師。足は速いが、ミッションは行かない。

ルルー

自称サタンの婚約者の格闘女王。足はかなり速く、ミッションにも参加する。

ウィッチ

プライドが高く、自分に正直な性格の魔女。足は普通で、ミッションは状況次第で参加。

ドラコケンタウロス

美少女コンテストに情熱を燃やす半竜半人の女の子。足は速く、ミッションにも参加する。

アミテイ

プリンプタウンの魔導学校に通う明るい女の子。足は速く、ミッションにも参加する。

ラフィーナ

良家のお嬢様で誰に対しても高飛車かつ高圧的な唯我独尊系少女。足はかなり速く、ミッションにも参加する。

シグ

虫を愛好する非常にマイペースな少年。足は遅く、ミッションには興味無し。

リデル

頭のツノを気にしている亜人間の女の子。足は遅く、恥ずかしがりやなため、ミッションには行かない。

クルーク

成績優秀だが、他の生徒を見下している自意識過剰でイヤミな性格の生徒。足は遅く、ミッションには向かわず自首を狙っている。

フェーリ

プリンプタウンの隣町の学校に通う生徒で、自分の世界にどっぷり漬かり込んでいるダークな少女。足は遅く、ミッションには行く。

レムレス

フェーリの先輩に当たる、学生ながら非常に優秀な魔導師で、彗星の魔導師を名乗る学生。足は普通で、ミッションは行かない。

サタン

自称・魔界の貴公子。足は普通で、ミッションは他人任せ。

以上の35人で逃走中を行う。

逃走者紹介（後書き）

上条当麻・御坂美琴・アイクが三回連続の参戦！

今回こそ逃げ切れるのか！？

そして、実力未知数のサタンにも注目！

エリア詳説（前書き）

今回のエリアです。

前回みたいにあいまいな感じではなくイメージしやすいように書いてみました。

こうやって書くと自分でもどんな感じなのか想像しやすい。

エリア詳説

エリア詳説

今回逃走者たちが逃げるエリアの舞台は伝説の剣士が存在していたと伝えられる『とある王国』。

中世の街並みつばい建物が印象的な王国である。

この国は水路が敷かれており、水路には移動手段として、船が通ったりしており、水路沿いの道がある。

エリアの広さは東京ドームの約7個分。

エリア中心から見て北西の位置に『王の城』があり、エリア中心部にはこの国の住民が平和に暮らしている『城下町』がある。

王の城の近くには不思議な力があると伝えられている『神秘の噴水』がある。

城下町の南側にはいろいろな物が売られている市場が開かれていて、北西側にはたくさんのお宝などがある『宝石の館』がある。

そして、王の城の近くには、漁船などが停泊している『港』と、離れ小島をつなぐためにある『跳ね橋』がある。

そして、エリアの北側には広大な森が広がる『緑の森』があり、隠れ場所としては最適の場所である。

その森の中心にはお祝い事やお祭りがあるときに使用される『パーティー広場』がある。

そして、南東側には風車が印象的な『花園の丘』がある。

此処は風車以外に目立った建造物は無く、隠れるのは困難である。

ちなみに、王の城と城下町、緑の森、花園の丘の間には水路があり、その間には橋が掛けられてある。

エリア詳説（後書き）

なんとか頑張りました…。

次回はついに、OPゲーム…。

オープニングゲーム（前書き）

エリア詳説を確認してみたらちょっと自分の想像していたエリア構成とは違う所があったので修正しました。

では、恐怖のオープニングゲーム、スタートです…。

オープニングゲーム

漆黒の闇の中、王の城がきらきら輝く下、35人の逃走者たちが集められていた…。

アルル「もうすぐだね…。」

サタン「アルル！いざという時はこの私が…。」

シエゾ「いや、この俺が…。」

アルル「もう二人とも！ボク一人でも大丈夫だよ！！」

なのは「頑張ろうねフェイトちゃん。」

フェイト「うん、なのは、頑張ろう！」

アリス「早くしてくれないかしら…。」

アイク「今回こそは絶対に逃げ切るぞ…。」

シグナム「もうすぐか…。」

逃走者たちそれぞれが気を引き締めている中、スピーカーから不気味な声が聞こえて来た。

『これより、ゲームを始める。』

レミリア「いよいよだわ…。」

美琴「始まるのね…。」

『君たちの目の前にいるハンターはボックスの中に閉じ込められている。』

君たちの前に置いてあるサイコロの目は2から6の目とハンターの目がある。

逃走者たちが協力して、ハンターボックスを30マス以上進めることができれば逃走者たちに1分間の猶予が与えられる。

しかし、ハンターの目を出せばハンターが解放たれ、ゲームがスタートする。』

逃走者たちがこれから挑むのは、恐怖のオープニングゲーム！

逃走者たちとハンターの距離はおよそ30メートル。

逃走者たちは一人ずつ、サイコロを振らなければならない！

サイコロには2から6の目とハンターの目がある。

逃走者たちは協力してハンターボックスを20マス以上進めることができれば1分間の猶予が与えられる。

しかし、ハンターの目を出した瞬間、ハンターが放出。ゲームが始まる…。

なお、サイコロを振る順番はくじ引きで決まっている。運任せだ…。

全員「いつせーの、でー!!」

カシャン！

マリオ「ええと…14番か…。」

フラン「ええ！？3番！？一番危ない所じゃん!!」

レミリア「私は25番だわ…。」

スバル「8番！ティアナは？」

ティアナ「あたしは10番だわ。スバルの2個次ね。」

シグ「おおー。34番。」

一人目 ルルー

ヴィータ「いきなり出さないでくれよ！」

ルルー「そんなの分かんないわよ！」

そう、このオープニングゲームに必要なのは…運だ…。

ルルー「でも逃げる準備はしたほうがいいわよ？」

マリオ「そうだな。」

ヴィータ「逃げる準備つと…。」

ルルー「行くわよ…。」

果たして、クリアか…ハンター放出か…？

ルルー「やあ！」

ルルーが投げた…。

トントーン…。

ルイージ「一発目とかやめてよね…。」

サイコロの…。

ころころ…。

ルルー「お願い…。」

目は…!?!?

ころころ…ピタ…。

全員「!?!?!」

サイコロの目は…。

「5」だ。

全員「怖〜!!!」

ルルー「なんとか出さずにすんだわ…。」

ハンターボックス、5マス接近…。

ガガガ…。

サタン「うむ…思った以上に来るな…。」

クリアまで、残り15マス！

二人目 博麗霊夢

霊夢「絶対に此处で捕まりたくないわ…。」

魔理沙「霊夢ー！絶対にクリアしろよ！」

霊夢「当たり前でしょー！」

幻想郷で一番強いと言われている博麗霊夢、その運はいかに…。

霊夢「行くわよ…。」

クリアか…ハンター放出か…。

霊夢「はぁ…！」

ひゅー…。

果たして、出るのは…。

トンッ…！ンニッ…。

アルル「怖いよ…。」

数字の目が…。

ころころ…。

はやて「…。」

ハンターの目が…!?

ころころ…ピタ…。

全員「!!」

出た目は…。

「3」だ。

霊夢「危なかったわ…。」

ハンターボックス、3マス接近…。

クリアまで、残り12マス！

三人目 フランドール・スカーレット

フラン「ちょっとこれは厳しいかも…。」

レミリア「大丈夫よ、フラン！6分の1だから！」

もし、ハンターの目を出せばその瞬間ハンターが放出、恐怖のゲームが始まる！

フラン「そうだよね…。じゃあ行くよ！」

クリアか…ハンター放出か…。

フラン「えーい！」

ひゅー…。

リデル「お願い…。」

果たして…。

トレンジャー…JUNJUN…。

出るのは…。

フラン「あー！やばい！」

マリオ「うおおお…！」

ドラゴロ「きんちんっやっ回って…！」

ハンターの目か…！？

ピタ…。

全員「…！」

サイコロの目は…。

「6」だ。

フラン「やったああ!!!」

アリス「一番いい目じゃない？」

アイク「よし、もうちょっとでクリアできる!!!」

ハンターボックス、6マス接近…。

クリアまで、残り6マス!

次の一手でクリアできる可能性ができた!

シグ「おお…」。

レムレス「次6の目を出したらクリアなんだね？」

この重要な局面で回ってきたのは…。

四人目 ウイツチ

ウィツチ「近すぎますの…。」

ラフィーナ「あの距離で出たら危ないんじゃないの？」

もしこの距離でハンターの目を出せば犠牲になるのは一人では、済まない！

ウィツチ「行きますわよ！」

クリアか…ハンター放出か…。

ウィツチ「そおれ！」

ひゅー…トン…トン…。

果たして…。

美琴「こんな所で出てほしくないわね…。」

この一手で…。

ころころ…。

ウィッチ「お願いですの…。」

クリアとなるか!?

ピタ…。

ウィッチ「!」

全員「!」

サイコロの目は…。

「4」だ。

ウィッチ「クリアとまではいきませんでした…。」

ハンターボックス、4マス接近…。

ガガガ…。

当麻「うわあ…近いつて…。」

ドラコ「もう目の前じゃん！」

フェイト「次が重要だよね…。」

クリアまで、残り2マス！

サタン「次で決まるのか…。」

このオープニングゲームクリアの運命を握るのは…。

五人目 レムレス

彗星の魔導師、レムレスに託された！

レムレス「まさか僕の所まで来るとはね…。」

フェーリ「先輩…。」

レムレス「大丈夫、クリアして見せるさ！」

もし、この距離でハンターの目を出せば、4体のハンターがレムレスに襲いかかる！

レムレス「それじゃあ行くよ…。」

クリアか…ハンター放出か…！？

レムレス「やあ！」

トンッ！ころころ…。

オープニングゲームを…。

フェイト「お願い…。」

クリア…。

ころころ…。

レムレス「微妙だね…。」

できるか…！？

ころころ…。

インデックス「大丈夫だよね…。」

ころころ…ピタ…。

全員「！！！」

サイコロの目は…。

「42」

シエゾ「隠れる場所が…少ないな…。」

アリス「とりあえず…此処にいきましょう…。」

「30」

ハンター放出まで…あと30秒！

シャマル「これ…きつい…！」

アミティ「え〜！？隠れる場所が少ないよ〜！！」

「21」

なのは「もうすぐ…。」

サタン「此処で少し様子を見るか…。」

「15」

シグ「おお〜…いい所…。」

「11」

スタッフ「ハンター放出まであと10秒近くです。」

ティアナ「えっ！？もうすぐ10秒！？」

6
!

7
!

8
!

9
!

10
!

ハンター放出まで…。

1
!

2
!

3
!

4
!

5
!

プシュー！ガコン！

恐怖のゲームが、幕を開けた…。

アイク「始まった！」

シグナム「ハンターが放出されたか…。」

フェーリ「…走っているわね…此処から離れましょう…。」

シェゾ「ついに始まった…。」

クルーク「此処に隠れてく…。」

ウィッチ「ついに始まりましたわね…。」

魔法使いの少女の、ウィッチ。

ウィッチ「一人前になるためならこのくらいはクリアしますわよ！」

逃走成功を目指す！

当麻「始まりましたねえ…。」

3回行われた「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！」のすべてに参加している逃走者の一人の上条当麻！

当麻「3回も出ていますからね…パターンとかは大体はわかってきましたよ…。」

アイク「もちろん目指すは逃走成功！」

こちらにも3回すべてに参加しているアイク。

アイク「自首なんて最初から考えていない！最後まで逃げ切る！」

自首する気は、無いようだ…。

サタン「今は…1万円か…。」

ぶよ地獄を創造したボスらしい自称・闇の貴公子のサタン。

サタン「アルルとはぐれてしまったが…まあいい、そのうちにまた会えるだろう。」

果たして、その実力は！？

シエゾ「今は…此処か…。」

現在、城下町にいるシエゾ・ウイグイイ。

シエゾ「とりあえず周りの状況を把握しておこうか…。」

マリオ「ハンターはやっぱり怖いからな…。」

王の城付近にいるマリオ。

マリオ「逃げるルートを確保しておいた方がいいからな…。」

その彼の近くに、ハンター…。

マリオ「此処は…無理か…この先だな…。」

ハンター「…。」

マリオ「この先を曲がってこう行けばいいのか。」

ハンター「…!」

見つかった…。

マリオ「こつからはこつは…って来てる!!!」

ハンターに見つかったマリオ、振り切れるのか!?

マリオ「速い速い速い！！！！うわあああ！！！！」

ポン

マリオ 確保 残り 34人

マリオ「ちょっと待てよ……いきなりかよ……嘘だろ……!?」

スーパースターが開始早々、ゲームから、脱落……。

マリオ「うわあ……ルイージになんて言われるかな……」

アリス「夜だからハンター見えにく……ピリリ！ピリリ！」な、何よ！
見つかっちゃうじゃない！！」

ルイージ「えええー!?」王の城付近にてマリオ確保。残り34人。
『って、兄さん早すぎるよー!』

アイク「え……まだ……始まって5分も立っていないぞ!?!」

ハンターから逃げた時間に応じ、賞金を獲得できる、それが……。

『run for money逃走中』!!

リデル「わあ〜…お城が奇麗に光っています〜…。」

なのは「あつ、兵士さんたちだ〜…王国だ〜…。」

今回の舞台は、海に浮かぶとある王国！中世の建物が立ち並ぶこの王国には伝説の剣士が存在していたと言われる伝説がある。

広さは東京ドーム7個分。このエリアの中を34人の逃走者が、逃げ回る。

フラン「うわあ…どんどん賞金が上がっていくよ…。」

賞金は1秒100円ずつ上がり、ゲーム時間160分を逃げ切れれば賞金96万円を獲得できる！！

フェーリ「自主…危なくなったらその選択肢も考えてあるわ…。運命にはそうした方がいいと出ているわ…。」

クルーク「最後まで行く気はないさ。いい金額になったら自首しようと思ってる。」

さらに、このゲームでは自首も可能！エリア内に設置されている2台の自主用電話ボックスから自首を申告することでゲームから離脱、それまでの賞金を獲得できる。

しかし、エリア内には4体のハンター。

ハンターに確保されればその時点で失格、賞金も、0。

ゲーム残り時間 158分30秒 残る逃走者 34人

オープニングゲーム（後書き）

今回一番長いかも…頑張った方です。

さっそくハンターによって確保者が出てしまった。

次回、王国に迫る危機…。

通達1（前書き）

すみません、エリアを追加します。

エリア追加

王の城、城下町に『町広場』を追加します。

町広場は他の所と比べると開けた場所でハンターに見つかりやすい。

ちなみに王の城と城下町の間水路はありません。

城下町に『並木通り』を追加します。

並木通りはその名のとおり、道のわきに木が植えられています。

通達 1

はやて「いやあくまさかまた出してもらえるとはなあ〜。」

前々回もこの逃走中に参加した八神はやて。

はやて「前はアカンかったけど今回こそは逃げ切るで〜。」

逃走成功を目指す。

シグナム「この逃走中に参加できるなんて…光荣だ。」

ヴォルケンリッターの将、シグナム！

シグナム「主はやてが参加したゲームだと聞いてな…どんなものか気になっていたのだ。出さしていただけいた以上は楽しまなければな。」

シグ「う〜ん…。」

現在、緑の森に隠れているシグ。

シグ「いい所まで行ったら自首しようかな〜…。僕そんなに行けるとは思わないからな〜…。」

自首を狙っている。

霊夢「これが逃走中と言うものなのね…。」

幻想郷で一番強いと言われる巫女、博麗霊夢！

霊夢「外の世界ではこんなものがはやっているのね…。」

ルイージ「まさか兄さんが一番最初に捕まってしまうなんて…。」

先ほど確保されたマリオの弟、ルイージ。

ルイージ「兄さんの為にも絶対に逃げ切らないと…。」

そのルイージの近くに…。

ルルー「このあたりはちょっと入り組んでいるわね…。」

ルルーだ。

ルイージ「えーと…あつ、ねえ、ハンターいたそっちに？」

ルルー「いいえ、今のところは見かけていないわ。」

ルイージ「そう、ありがとう。」

ルルー「兄みたいに捕まるんじゃないのよ!」

ルイージ「分かってるよ!」

アルル「このあたりは危ないかな?…ちょっと見えすぎだし…。」

町広場にやってきた魔導師のタマゴ、アルル・ナジャ。

その近くにハンター…。

アルル「うん…あつ、ハンター!不味い不味い…。」

急いで建物の影に隠れる。

ハンター「…。」

アルル「…。」

ハンター「…。」

見つからなかったようだ…。

アルル「ふう〜危ない危ない…でもシエゾとかサタンは大丈夫なのかな?」

シエゾ「此処は…水路沿いの道か…。」

水路沿いの道にやってきたシエゾ。向かう先に…。

サタン「…闇の魔導師…。」

サタンだ。

シエゾ「…!」

サタン「なぜ貴様がこんな所に…。」

シエゾ「それはこっちの台詞だ…。いいか、俺はお前よりは絶対に逃げてやる!」

サタン「その言葉、そっくり返させてもらおうか。」

シエゾ「ふん、せいぜい頑張るんだな。」

サタン「貴様こそ…。」

スタッフ「仲が悪いですね…。」

シエゾ「当たり前だ。あのおっさんとは二度と会いたくないな。」

サタン「あいつに負けるなど考えられん。」

フェーリ「それにしても…きれいなお城ね…。」

お城を眺めるフェーリ。

このお城には、この王国の国王がいる。

住民は平和にこの国で暮らしていた。

国王（演：新川）「ふふっ、今日も平和じゃな…。」

大臣（演：KAITO）「陛下、今日ものどかですね。」

国王（演：新川）「ああ、平和が一番じゃな…。」

そして、その影では…。

？「あんな国王にこの国は任せられない…この私が国王に就いてこの国の王になってやる…！」

謎の人物が、国王の座を狙っていた。

謎の人物は、王の城の最上階に出て、松明をささげた。

王の城から、煙が上がっている…。

そして、この煙がある者へのサインだった…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「なるほど…次はあそこね…」

船員（演：キヨン）「あそこには「宝石の館」と言われるお宝がたくさんしまっている館があるそうです。」

船長（演：涼宮ハルヒ）「よし…お宝は全部、この海賊「パイレーツ」がすべていただくわ！」

海賊が、王国に接近する…。

そして、エリア内に逃走者の運命を分けるものが登場した…。

ピリリリ…ピリリリ…。

アイク「何だ？メール…『通達1』…なんだ…？」

レミリア「『エリア内に宝箱を設置した。』『宝箱…？』」

スバル「『宝箱の中には逃走に有利なアイテムが入っている。』」

レムレス「『しかし、ひとつだけ開けると大変な物が入っている。』
大変なもの…？』」

アルル「『宝箱は残り120分までしかエリアに設置されない。そして宝箱は6個しかない。早い者勝ちだ。』」

インデックス「アイテムだって！」

通達1 アイテムを入手せよ！

エリア内に宝箱が設置された。

中には逃走に有利なアイテムが入っている。

しかし、ひとつだけ、開けると大変なことになるアイテムが入っている。

ちなみに宝箱の位置は逃走者たちには伝えられていない。

宝箱は残り120分になると消滅する。

数は6個のみ。早い者勝ちだ。

魔理沙「アイテムか…興味あるな、取りに行ってみるか！」

サタン「有利になるんだっいたら行ってみる価値はあるな…。」

ドラコ「よし、取りに行くぞー！」

フェイト「行ってみようか…。」

アイテムを取りに行く逃走者たち！

宝箱は残り120分になると消滅する。それまでに取りに行かないといけない！

当麻「どうしよっかな…だってさ、近くにいる人がアイテム取っ

てしまったらもうそこで終わりなんだろ？」

ティアナ「行くわけ無いでしょう！？絶対にこんなのは信じない！」

スネーク「この「開けると大変になる物」が気になるな…。」

なのは「開けると大変な物…ハンター？」

サタン「！こんな所にあつたか…。」

最初に宝箱を見つけたのはサタン。

サタン「さてと、中身は…。」

ガタッ

サタン「これは…一体なんだ？」

中に入っていたのは黒い銃だった。

サタン「何々…『冷凍銃』…。」

中に入っていたのは『冷凍銃』。これを使えばハンター1体をゲムから除外できる。

サタン「いいものが入っていたな。よし、じゃあハンターを除外しに行くか！」

サタン、ハンターを除外するためにハンターを探しに向かう。

アイク「これが宝箱か…？」

アイクも宝箱を見つけた。

アイク「一体何が入っているんだ？」

ガタッ

アイク「…？捕獲網…？」

中に入っていたのは『捕獲網』。これをハンターに向けて使えばハンターの動きを1分間止めることができる。

アイク「よし！ピンチの時に役に立つな！逃走成功できそうだ！」

捕獲網を手に入れたアイク。心強い物を手に入れた。

ルイージ「おっ！これがそうか！」

ルイージが、サタンやアイクが見つけた宝箱よりもひときわ大きい宝箱を見つけた。

ルイージ「でもこんなに大きかったら何かいやなことがあるそうだな…まあいいや、開けてみるか。」

果たして、その中身は？

ルイージ「よつと。」

ガタツ

ハンター「！」

ルイージ「ぎょえ〜！？」

なんと、中に入っていたのは『ハンター』！「開けたら大変になる物」とはハンターのことだったのだ！

至近距離のため、逃げれるわけもなく…。

ルイージ「ひゃああ〜！！」

ポン
ルイージ 確保 残り 33人

ルイージ「え〜中にハンターが入ってたの〜!? あんなのアリ〜!
?」

確保されてしまった。兄弟二人とも牢獄行きだ…。

フラン「『港付近にてルイージ確保。残り33人。』」

スネーク「おいおいあいつら何やってんだよ…。」

アイク「『そして、ルイージがハンターが入っていた宝箱を開けて
しまったためハンター1体追加。合計5体となった。』 ええ〜!?
ふざけんなよ!」

当麻「いらんことしてくれたな…。」

インデックス「あ、でもこれって逆に言えばこれから開けるすべての
の宝箱は安全ってことなんだ。」

十六夜「ちょっと取りに行ってみますね。」

ラフィーナ「何やってんのよ…。」

メールを見て文句を言うラフィーナ。

その近くに…。

ハンター「…。」

ハンター…。

ラフィーナ「もう…！ハンターいますわ…。」

ハンターを見つけたラフィーナ。ハンターもラフィーナの姿に気付いた。

ラフィーナ「わたくしになめてかかりますと痛い目にあいますわよ！」

町の角を使い、ハンターの視界から消える。

ハンター「…？」

見失ったようだ…。

ラフィーナ「なんとか行けましたわ…。」

なのは「これが宝箱…？」

宝箱を見つけたのは。そこに…。

シエゾ「ほう…これが宝箱か…。」

シエゾがやって来た。

なのは「あ、シエゾ君。」

シエゾ「その中身は一体何なんだ？」

なのは「これから開ける所なんだよ。ちょっと開けてみるね…。」

一体何が入っているのか？

なのは「何かな…。」

ガタッ

なのは「…？地図？地図が入っていたよ？」

中に入っていたのは『秘密の地図』。どこの地図かは不明だ。

シエゾ「…おい…。」

フェイト「！なのはが誰かのものになるような台詞が聞こえて来た
ような…。」

スタッフ「気のせいじゃないですか？」

フェイト「うん…そうかも…。」

次回、逃走者に危機が迫る…。

通達1（後書き）

初めて挑んだドラマパート！

やっぱりグダグダになりました！

そしてシェゾはいつも通りのことを言っています。

次回、ミッション発動！

MISSION? 1

現在のゲーム残り時間 152分11秒。

残る逃走者 33人

現在2人の逃走者が確保され、残るは33人となった。

果たして、逃げ切るものは現れるのか!?

フラン「そう言えばアイテムどうなったのかしら...?」

現在宝箱は4つ開けられており残るは2個となっている。

フラン「でもどこにあるかわからないし...」

シエゾ「くそっ...また言ってしまった。」

現在宝石の館付近にやってきたシエゾ。

シエゾ「今度からは気をつけないとな...」

と、その...。

ハンター「…。」

ハンターだ…。

シエゾ「…！ハンターか…。」

いち早くハンターに気付いたシエゾ。

ハンター「…。」

どうやらハンターには気づかれていない。

シエゾ「不味いな…距離を取っておくか…。」

急いで距離を取る。

ハンター「…。」

無事、気付かれなかったようだ。

シエゾ「あぶねえ…。」

この王国に海賊が向かっている中…国王は…。

国王（演：新川）「ちょっと覗いてみますか…。」

呑気に住民たちのことを観察していた。

国王（演：新川）「今日も平和ですね…？あれは何でしょうか…？」
国王が見つめる先には緑の森のパーティー広場に置かれた謎の木箱…。

国王（演：新川）「不思議な物ですね…。」

そして…。

今宵「こっちの設置は完了したな。後は…これだけか…。」

そして、町広場に3個のハンターボックスが出現した…。

今宵「しかし今回の逃走中…自首の方法を少し変えた方がよかったな…。」

そして、此処は別の場所…。

？「おい、ハンターの機密ファイルはコピーできそうか？」

？「いえ、ロックが掛けられていて、今のところは…。」

？「そうか…あのハンター機密ファイルは我々の計画に必要なのだ。一刻も早くコピーしろ。」

？「は、はい！」

？「しかし…コピーしたとなると此処の居場所を探られてしまう…」

人質が必要だな…そうだな…やつの逃走中にすべて出ている逃走者
なんかが適任か…。」

謎の影が動いていた…。

ピリリリ…ピリリリ…。

なのは「何々メール？」

スネーク「ミッション1…来たか…。」

アルル「『エリア内に3つのハンターボックスを設置した。』え！
？」

当麻「『残り140分になるとエリアに解き放たれ、その数は最大
で9体となる。』これ以上増えたら逃げ切るやついないんじゃない
か！？』」

ドラコ「『放出を阻止するには緑の森のパーティー広場に設置され
た木箱の中に入っている銅貨を使い、ハンターボックスを封印しな
ければならない。』銅貨？』」

ミッション1 ハンター放出を阻止せよ！

エリア内の王の城、並木通り、町広場にハンターボックスが設置さ
れた。

ハンターは残り140分になるとエリアに解き放たれる。
ハンターボックスを封印するにはパーティー広場に設置された木箱
の中に入っている銅貨をハンターボックスにセットし、封印しな
ければならない。

なのは「ミッション…もちろん行くよ！」

当麻「行ってみますかねえ…。」

アルル「よし、行こう！」

アミテイ「行ってみるよ！」

魔理沙「ハンター増やしたくないからな！行くぜ！」

シグナム「おつ、パーティー広場…近いぞ！」

現在ミッションに向かうのはこの6人。

シグ「ミッション？興味無い…。」

レミリア「まだ大分残っている人数多いし…任せるわ…。」

ヴィータ「はあミッション？んなもん行くわけねえだろ！あんなも
んハンターに捕まるようなもんだろ！此処は任せる。だってリーダ
ーとか美琴ってやつとかミッションに積極的なやつがたくさん残っ

てるからな！あいつらがやってくれんだろ…。」

美琴「緑の森…こっちな！」

ミッションに向かう御坂。

ハンター「…。」

しかし…ハンターが接近…。

美琴「早く…！ハンター！」

ハンター「…！」

見つかってしまった…。

美琴「速い…。」

驚異の身体能力で逃げる御坂。その逃げる先に…。

ルルー「あ、あの子…。」

ルルーだ。

美琴「ハンター来てるわよ！」

ルルー「ええ！？ちよつと何してんのよ！」

巻き添えを食らい、逃げるルルー。

美琴「はあ…はあ…。」

ルルー「ちよ、先に行かないでよ！」

御坂がルルーを追い抜き、ハンターの標的がルルーに変わった！

ルルー「速すぎるわよこいつ！なっ！？」

ポン

ルルー 確保 残り 32人

ルルー「きい〜！あの小娘〜！私を追い抜くなんて〜！許さないんだから〜！」

巻き添えを食らった…。

美琴「はあ…はあ…大丈夫かしら…。」

フェイト「確保情報…。『花園の丘にてルルー確保。』」

シャルル「『残り32人。』…また捕まったわ…。」

サタン「ルルーが捕まってしまったか…。」

シエゾ「何！？あいつ結構足速いぞ…それでも捕まってしまうとは…。」

美琴「うわ…悪いことしたな…。」

シグナム「よし、パーティー広場に着いたぞ！」

一番乗りでパーティー広場に付いたのはシグナム。

シグナム「木箱木箱…これが…。」

ガタッ

シグナム「これをハンターボックスにはめて封印すればいいんだな。」

シグナム、ハンター放出を防ぐため、ミッションに向かう！

シグ「むう…。」

現在、緑の森に隠れているシグ。

スタッフ「ミッションにはいかないんですか？」

シグ「ミッションは…!」

シグの目の前をハンターが通り過ぎた。

シグ「たぶん今動いていたら捕まってたよ。だから任せる。」

ミッションに行く様子は無い…。

十六夜「緑の森…こっちですね…。」

ミッションに向かう十六夜。

十六夜「ハンターの放出は何としても阻止しませんと…。」

スバル「なのはさんもミッションに行っていると思うんでミッション行きます!」

こちらにもミッションに向かうスバル・ナカジマ。

スタッフ「何で行くんですか?」

スバル「何もせずに捕まるよりは何かして捕まった方が良いから…。」

「

サタン「何だ何だ？ハンターっていざ探すと全然いないな…。」

冷凍銃を獲得しているサタン。しかし、ハンターが見つからない。

サタン「どこにいるのだ…。」

リデル「ハンター怖いです…。」

ハンターにビビるリデル。その近くに…。

ハンター「…。」

ハンター…。

リデル「…あつ、ハンターです！」

ハンター「…！」

見つかった…。

リデル「きゃ、きゃああ〜！」

逃げる先に…。

アルル「うわっ、サタン！何すごい物持っているの？」

サタン「おお〜！アルルか！これはな、冷凍銃と言ってな…。」

アルルとサタンだ…。

リデル「た、助けてください〜い！」

アルル「あ、ハンター！」

サタン「おお、ハンターが来たか…こっちに來いハンター！」

リデルがサタンとアルルを追い抜く。

アルル「うわ〜ハンター來てる〜！」

サタン「ふっ、お前、今すぐに此処から消える。さもないと…。」

ハンター「…。」

サタン「ぶよ地獄行きだ！喰らえ！」

プシュー！

ハンター1体冷凍　ハンター4体

サタン「ふう…どうだアルル、私がハンターを凍らせた勇姿はどう

だ？」

アルル「ありがとサタンー！」

サタン「あつ、行ってしまったか…。」

リデル「あ、あの…。」

サタン「何だ？」

リデル「助けに来てくれてありがとございます！お兄様…！」

サタン「お、お兄様だと!？」

リデル「え、えへへ…。」

サタン「その呼び方、むずかゆいのだが…まあ今回は許してやる。」

リデル「あ、ありがとございます。」

サタン「でも次はやめてくれないか？」

リデル「分かりました〜お兄様!あつ…。」

サタン「あのな…。」

インデックス「仲いいな〜…。」

フラン「何？通達…。」

フェイト「『サタンが使った冷凍銃によりハンター1体が除外された。』」

ドラコ「え！？あいつやるな〜！」

アリス「これで少しは楽になる…。」

シグナム「これがハンターボックスか…。」

並木通りのハンターボックスにたどり着いたシグナム。

シグナム「見た所此処にはめればいいんだな？」

そして、手に持っている銅貨をはめる。

シグナム「よし、あとはこうして…。」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り2個

シグナム「よし、封印したぞ！」

シグナムによってハンターボックスがひとつ封印された。

現在封印されてないのは2個。

現在の残り時間は145分21秒。

果たして、すべて封印されるのか!?

MISSION?1 (後書き)

なのは「サタン目立ってるの。」

シエゾ「あのおっさん目立ってるな…。」

フラン「目立ってるね〜。」

MISSION? 2 (前書き)

すみません。

吊り橋じゃなくて跳ね橋でした。

謝っておきます。

MISSION? 2

エリア内にハンターボックスが設置された。

残り140分までにハンターボックスを封印しなければ、ハンターが解き放たれる。

現在シグナムが並木通りのハンターボックスを封印し、残るは2個。果たして、すべてクリアできるのか!?

ウィッチ「誰が行ってるんですの?」

現在神秘の噴水付近にいるウィッチ。

ウィッチ「早く誰が行ってくれませんかとハンターが出てしまいますわ!」

自分はミッションに行く気はない…。

魔理沙「パーティー広場着いたぜ!」

パーティー広場に着いた霧雨。

魔理沙「木箱はこれか！」

そして、木箱の中の銅貨を取る。

霧雨魔理沙 銅貨獲得

魔理沙「よっしゃー！ミッションクリアしてやるぜ！」

ミッションに闘志を燃やす。

フェーリ「先輩は行ってるのかしら…。」

花園の丘にいるフェーリ。

フェーリ「一回電話してみるワ。」

ピリリリ…。

レムレス『やあフェーリ。一体どうしたんだい？』

フェーリ「あの…先輩はミッションに行っているんですか？」

レムレス『そのことだけど…今ハンターが近くにいて動けないんだ。だから行きたくても行けないんだ。』

フェーリ「そ、そうなんですか…。」

レムレス『近くにいるハンターがどこかに行ったら僕もハンターに行こうと思うんだ。』

フェーリ「そ、そんなんですか…先輩頑張ってください！」

レムレス『うん、フェーリも頑張ってね！』

ピッ！

フェーリ「…先輩のためにも頑張るワ…。」

フェーリ、ミッションに向かう。

レムレス「うーん…ハンター中々行かないなあ…。」

レムレスはハンターに動きを制限されていた。

十六夜「着きました…。」

十六夜も銅貨を取りにきた。

十六夜「これですね…。」

十六夜咲夜 銅貨獲得

十六夜「早く行きませんか…。時間がありません…。」

はやて「ミッションは行動力のある人が行ってると思うんやけどな
…。」

現在王の城にいる八神。

はやて「いまさら行っても遅いと思うし…任せよっか…。」

現在残り時間は142分01秒。はやてのいる位置からパーティー
広場に向かっても間に合わない。

当麻「此処がそうか…。」

パーティー広場にやってきた当麻。

当麻「これか！」

上条当麻 銅貨獲得

当麻「やべえ！時間がねえ！あと2分もねえ！」

果たして、間に合うのか！？

ドラコ「誰が行ってるのかな？」

ミッションに他人任せなドラコ。

ドラコ「早く封印してくれないかな？」

しかし…。

ハンター「…。」

その近くに、ハンター…。

ドラコ「電話して行かそうかな？」

ハンター「…！」

見つかった…。

ドラコ「えーと…うわ！来てる…！」

半竜半人のドラコケンタウロス。果たして振り切れるのか!?

ドラコ「うわああ…！速いよ…！」

ポン

ドラコケンタウロス 確保 残り 31人

ドラコ「うへえ〜…ハンター速すぎるよ〜…。」

魔理沙「ハンターボックスに着いたぜ！」

町広場のハンターボックスに着いた霧雨。

魔理沙「此処にセットして…おりゃあ…！」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り2個

魔理沙「やったぜ！」

残るは王の城のハンターボックスだけ…。

現在向かっているのは十六夜と上条だが近いのは十六夜の方！

その距離、200メートル！

果たして間に合うのか！？

ハンター放出まで1分…。

十六夜「はあ…はあ…。」

当麻「やばいな…今行っても無理か…。」

上条、ミッションを諦めた。

十六夜「間に合うのでしょうか…。」

ハンター放出まで30秒を切った！

十六夜「…ハンターいませんね…。」

フラン「誰が行ってるのかな？」

アリス「不味い…もうすぐ出放出だよ…。」

ハンター放出まであと20秒。

十六夜「見えてきました！」

ハンターボックスに近づいてきた十六夜。

なのは「…あつ…不味い…。」

ヴィータ「誰か行ってねえのか？」

ハンター放出まで10…。

9…。

8…。

7…。

6…。

5…。

十六夜「着いた！セットして…。」

4…。

十六夜「せーのー!」

ガシャン!

ハンターボックス封印。

MISSION CLEAR

十六夜「や、やりました…。」

ピリリ!ピリリ!

リデル「メールです…。」

フラン「『シグナム、霧雨魔理沙、十六夜咲夜の活躍により、ハンター封印、放出は無し。』」

レミリア「やってくれたのね…。」

霊夢「魔理沙すごいわね…。」

魔理沙「へっへーん!どんなもんだぜ!」

シャマル「皆さんすごいですね…。」

ヴィータ「ほらな！行ってくれる奴がいただろ？こつゆつやつらに任せとけばいいんだよ。」

ミッションに全く無関心なヴィータ。

ヴィータ「知らない間にクリアしてくれるからいいもんだよなあ。」

インデックス「…！ハンター…。」

ハンターを見つけたインデックス。

インデックス「離れとこ…。」

その場を離れる…。

インデックス「ふう…危ない危ない…。」

その先に…。

魔理沙「ミッションをクリアすると気分が良いな…。」

ミッションに貢献した霧雨。

インデックス「！きりさめだったっけ？」

魔理沙「おう！そうだぜ？」

インデックス「ミッションクリアできるなんてすごいね。」

魔理沙「ま、このぐらい行けるぜ！」

インデックス「へへ。」

ミッション？が終了し、残る逃走者は31人となった。

しかし次回、逃走者たちにまた別の恐怖が襲う…。

MISSION? 2 (後書き)

ハンター放出の危機を逃れた逃走者たち。

しかし次回、逃走者にまた新たな恐怖が…!?

逃走者に新たなる危機！！ MISSION? 1 (前書き)

ミッション? を無事クリアした逃走者たち。

しかし、また新たなる危機が!?

逃走者に新たなる危機！！ MISSION? 1

スバル「ミッションに参加できなかったのが悔しいな…。」

先ほどのミッションで活躍できなかったスバル。

スバル「次のミッションは絶対に行くぞ！」

シグ「おお〜…虫だ〜。」

緑の森で未だに隠れているシグ。

シグ「かつこいいな〜…！」

しかし、ハンターを見つけた。

シグ「不味い…。」

身を隠すシグ。

ハンター「…。」

シグ「…。」

見つからなかったようだ…。

シグ「あ、危ない…。」

ティアナ「みんなよくやってくれているわね…。」

花園の丘の風車の陰に隠れるティアナ。

ティアナ「でも信用できない…。」

ピリリ！ピリリ！

魔理沙「ん？アリスからだぜ？」

逃走者同士の通話は可能。

アリス『魔理沙！すごいじゃん！メールに名前載ってたよ！』

魔理沙「ああ…確かミッションをクリアしたからだな！」

アリス『へえー…すごい…』

魔理沙「まあお互い頑張ろうな！」

アリス『うん！じゃあねー！』

ピッ！

アリス「魔理沙頑張ってるなあ…。」

シグナム「ミッション…行けたな…。」

先ほどのミッションに貢献したシグナム。

シグナム「次のミッションも頑張るぞ。」

そのころ、王国では…。

大臣（演：KAITO）「大変です！王様！」

国王（演：新川）「な、何事だ!？」

大臣（演：KAITO）「現在この国に海賊が接近中です！」

国王（演：新川）「な、何だと!？」

大臣（演：KAITO）「さらにこの国に海賊の接近がいたとの情報も…。」

国王（演：新川）「ううむ…。その海賊についての情報は無いのか？」

大臣（演：KAITO）「あ、はい！右腕に碇の模様があると…。」

国王（演：新川）「そうか…。」

大臣（演：KAITO）「どうしましょうか…。」

国王（演：新川）「怪しい奴はひつとらえろ！そして海賊のやつらも見つけたらひつとらえるのだ！」

大臣（演：KAITO）「は、ははー！！！」

国王（演：新川）「ううむ…海賊か…。」

大臣（演：KAITO）「王様ー！」

国王（演：新川）「なんじゃ！？戻ってきて…。」

大臣（演：KAITO）「この国で怪しい奴らの目撃情報が…。」

国王（演：新川）「なるほど…今すぐに掲示板にそのやつらの顔の絵を張り、そのやつらの顔を書いた紙を国中に撒くのだ！」

大臣（演：KAITO）「は、ははー！！！」

バラバラバラバラ…。

民衆「何だ何だ!？」

住民1「この国に怪しい奴らが逃走中!？」

住民2「見つけた者は王の城まで!？」

大臣（演：KAITO）「怪しい奴はすぐにひっとらえるんだ！」

兵士たち「ははー！！」

この出来事が逃走者たちに新たな試練となつて降りかかる！

はやて「…え？何々？」

美琴「騎士たち？」

リデル「何か騒がしいです…。」

フェーリ「…何？王の城から紙が…。」

シグナム「怪しい奴らがこの国で逃走中！？」

サタン「一体何だこれは！？」

レミリア「一体何なのよ…。」

ピリリ「…ピリリ…。」

レミリア「何？メール？」

当麻「ミッション2！来た来た…。」

霊夢「『現在この国に海賊が接近中だ。』海賊？」

クルーク「この国で怪しい奴らの目撃情報が国王にとどいたため、エリアに50人の兵士が放たれた。」へ、兵士？」

フラン「兵士は君たちを見つけると笛を吹き、笛の音を聞きつけたハンターが確保に向かう。」うわあ……。」

ティアナ「さらに、君たちの顔が書かれた紙が国中に撒かれたため、住民が君たちを見つけると、騒ぎ出し、その騒ぎを聞きつけたハンターが確保に向かう。」

シエゾ「疑いを晴らすには王の城にいる王国と大臣に右腕を見せなければならぬ。」

アリス「えーじゃ絶対に動かなきゃいけないってことなんだ……。」

ヴィータ「……めんどくせー！」

ミッション2 疑いを晴らせ！

国王に海賊の情報が入ったため、怪しい者を探すためにエリアに50人の兵士と逃走者たちの顔が書かれた紙がばらまかれた。

兵士は、逃走者たちを見つけると笛を吹き、笛の音を聞きつけたハンターが確保に向かう。

そして、国の住民が逃走者たちを見つけると、騒ぎ出し、その騒ぎを聞きつけたハンターが確保に向かう。

疑いを晴らすには王の城にいる国王と大臣に右腕を見せなければならぬ。

レムレス「よし…じゃあ行こうか…。」

ヴィータ「めんどくせえ…。」

フェーリ「…！いるじゃないの…。」

当麻「さすがにこれは…。」

アルル「…！兵士だ…不味いよ…動けないよ…。」

ウィッチ「早く行きませんか…。」

王の城に向かうウィッチ。だがそこに…。

兵士「…！」

兵士だ…。

兵士「いたぞー！」

ピーッ！！

ウィッチ「不味いですわ！見つかってしまいましたわ！」

ハンター「…！」

笛の音を聞きつけたハンターが確保に向かう！

そして…。

住民1「こ、この人よ！」

住民2「こいつだー！」

ウィッチ「騒ぐなですわ！」

住民に、顔を見られた…。

ハンター「…。」

ウィッチ「は、ハンターですわ！」

ハンターに見つかった…。

ウィッチ「は、速すぎますわよ！…きゃああ！…！」

ポン

ウィッチ 確保 残り 30人

ウィッチ「もう…どうしろってのよ…ダメだこりゃ…。」

アリス「兵士、住民の通報により、ウィッチ確保。残り30人。」

クルーク「さつそく捕まったよ…。」

シエゾ「動く和不味いな…。」

ヴィータ「ほらこいつ！ミッションに動いたから捕まったんだよ！
ミッションに動いて捕まるなんてアホなやつだなあ！」

はやて「おっ！此処から近いやん！」

偶然、王の城にいたはやて。

黒子「此処からあそこに行けば…。」

白井も同じく王の城にいたようだ。

はやて「あっ！なあ王ってどこにおんねん!？」

黒子「そんなのわかりませんの！」

向かう先に…。

国王（演：新川）「…。」

国王と大臣だ…。

黒子「！もしかして、あの人じゃありませんの!？」

はやて「そつや！多分あの人や!！」

兵士1「…！何者だ、お前ら！」

はやて「あつ、私ら怪しいものじゃないんで…。」

黒子「あら？この人どこかで…。」

はやて「あつ！確かリンク君ちゃう？んでクロノ君、何してんの？」

兵士1（演：リンク）「リンク？誰だそれは？」

兵士2（演：クロノ・ハラオウン）「私たちは王をお守りする兵士だ！」

はやて「そ、そうなんかいな…。」

国王（演：新川）「で、何しに来たのじゃ？」

はやて「あ、私たち怪しいものじゃないんで…。」

国王（演：新川）「ならば右腕を見せるがよい。」

二人は右腕を見せる…。

国王（演：新川）「…ふうむ…どうやら本当に違つようだな。」

大臣（演：KAITO）「そのようですね。」

国王（演：新川）「疑って悪かった。この免罪符を持っていくがい。」

黒子「免罪符？」

国王（演：新川）「これを持っていけば兵士や住民に疑われることもなくなるだろう。」

黒子「分かりましたの。」

はやて「ありがとな。」

八神はやて 白井黒子 免罪符獲得

はやて「いやあ…よかったわ。」

黒子「これで少しは安心ですわね。」

はやて「…！兵士！」

二人は国王からもらった免罪符を兵士に見せる。

兵士「…疑ってすまなかった。」

はやて「おお…免罪符すごいなあ…。」

レムレス「急がないと…。」

フェイト「やだよ…捕まりたくないよ…。」

ラフィーナ「…どこから行けばいいのよ…。」

逃走者たちに降り注いだミッション？。

それによりさっそく一人が捕まってしまった。

果たして、逃走者たちはこのミッションを無事にクリアできるのか！？

現在 残り時間 134分48秒 残る逃走者 30人

逃走者に新たな危機！！ MISSION? 1 (後書き)

このミッションの一番難しい所は住民と兵士に見つからずに王の城に向かうことです。

王の城付近にいた人はいいんですがかなり離れた場所にいる人は危険度がかかなり高まります。

こう考えると緑の森と花園の丘にいた逃走者は不利かもしれません。

MISSION? 2 (前書き)

果たして逃走者たちはミッションをクリアできるのか!?!…ってか
宝箱のこと忘れてた!

逃走者たち「おい。」

MISSION? 2

疑いをかけられた逃走者たち。

疑いを晴らすには王の城の前にいる国王と大臣に右腕を見せなければならぬ。

現在2人がミッションをクリア。

果たして全員クリアできるのか!?

当麻「何で俺たちが疑いをかけられたんだ…?」

アミティ「王の城に行けばいいんだね!」

シエゾ「くっそ…。」

サタン「…!あれだな…。」

王の城に着いたサタン。

サタン「お前がこの国の王か?」

国王(演:新川)「!?!何者だお前は!?!海賊の仲間か!?!」

サタン「いや、違うな。」

大臣（演：KAITO）「なら右腕を見せて下さい。」

サタン「これでいいか？」

国王（演：新川）「…違うようだな…。疑って悪かった。これを持っていけば騒がれることは無くなるだろう。」

サタン「ふっ、当たり前だ。」

サタン 免罪符獲得

サタン「この城の近くにいてよかったな。」

シエゾ「ここか！」

フェーリ「着いたわ…。」

なのは「よかった…。」

シエゾ、フェーリ、なのはの3人が王の城に着いた。

国王（演：新川）「なんだね君たちは？」

フェーリ「私たちは怪しいものじゃないワ…。」

シエゾ「ああ、それを証明しに来た！」

大臣（演：KAITO）「だったら右腕を見せて下さい。」

フェーリ「これでいい…？」

なのは「ほら。」

シエゾ「ほらよ。」

国王（演：新川）「…どうやら違つみたいだな…。ならこれを持って行きなさい。」

シエゾ・ウイグイィ フェーリ 高町なのは 免罪符獲得

なのは「ありがとう！」

シエゾ「よしっ！クリアしたぞ！」

エリアには50人の兵士と逃走者たちを疑つ住民たち。もちろん見つかからないように移動するのは難しく…。

住民1「この人！怪しい人よ！」

フラン「何よ！」

フランが…。

住民1「こいつだ！」

住民2「誰かー！」

スバル「怪しいものじゃないってばー！」

スバルが…。

兵士「見つけたぞー！」

ピーッ！

ラフィーナ「笛を吹かないでほしいですわー！」

ラフィーナが…。

兵士「こいつだー！」

ピーッ！

霊夢「な、何よー！」

霊夢が見つかっている…。

アイク「くっそ〜」。

現在建物の影に隠れているアイク。

アイク「…！ハンター…。」

ハンターを見つけた…。

アイク「来るな…来るな…。」

ハンター「…。」

見つからなかったようだ…。

アイク「マジあぶねえ…。」

その後…。

アルル「よかったよ…。」

フェイト「これでいいんだ…。でも何でお兄ちゃんが？」

レムレス「まずは一安心だね。」

アルル、フェイト、レムレスがミッションをクリア。

アルル・ナジャ フェイト・T・ハラウン レムレス 免罪符獲得

ティアナ「中々移動できない…。」

未だに移動できていないティアナ。

ティアナ「住民が…邪魔で…あっ！そうだ！」

何かを思いついたようだ。

ティアナ「住民は顔しか見てないんだから…。」

アリス「中々移動できないじゃん…。」

城下町にいるアリス。そこに…。

兵士「…！」

兵士…。

ピーッ！

アリス「えっ！？えっ！？」

見つかってしまった…。

アリス「不味い！早く移動しないと…。」

しかし…。

ハンター「！」

その笛の音をハンターが聞きつけた…。

アリス「ハンター来てないかな…。」

ハンター「…。」

アリス「不味い！来てる！」

ハンターを見つけ、一目散に逃げるアリス。しかし、逃げ切れるわけもなく…。

アリス「キャアアアアア！！！」

ポン

アリス「もう…終わり…？」

兵士と住民に見つかればその音を聞きつけたハンターが確保へと向

かう。

アリス・マーガトロイド 確保 残り 29人

レミリア「『城下町でアリス・マーガトロイド確保。残り29人。』

」

美琴「見つかつてるのね…。」

シャマル「王の城に着きました…。」

王の城に来たシャマル。

シャマル「…あれ？何で…。」

兵士2（演：クロノ・ハラウン）「何だ？どうした？」

シャマル「い、いや…。」

国王（演：新川）「何しに来たんだ？」

シャマル「あ、私怪しいものじゃないんで…。」

国王（演：新川）「なら右腕を見せる。」

シャマル「はい…。」

大臣（演：KAITO）「…この人も違うようですね…。」

国王（演：新川）「そうか…ならこれを持っていくがよい。」

シャマル「ありがとうございます。」

シャマル 免罪符獲得

現在、免罪符を獲得したのは…八神はやて、白井黒子、サタン、シエゾ・ウィグイイ、フェーリ、高町なのは、アルル・ナジャ、フェイト・T・ハラオウン、レムレス、シャマルの10人。

そして、クリアしていないのは…シグナム、ヴィータ、スバル・ナカジマ、ティアナ・ランスター、スネーク、アイク、博麗霊夢、霧雨魔理沙、十六夜咲夜、レミリア・スカーレット、フランドール・スカーレット、上条当麻、インデックス、御坂美琴、アミテイ、シグ、ラフィーナ、リデル、クルークの19人。

果たして全員クリアできるのか!?

残り時間128分23秒 残る逃走者29人

MISSION? 2 (後書き)

アイテム誰が取るかなあ…？

MISSION?3 (前書き)

ミッション2…まだまだ続きます。

ってかいつ終わるのやら…。

MISSION? 3

逃走者全員に海賊の疑いがかけられた。

疑いを晴らすには王の城にいる国王と大臣に右腕を見せなければいけない。

現在10人がクリア。

クリアできていないのは19人。

果たして全員クリアできるのか!?

当麻「…やべっ!住民いた!」

住民を見つけた上条。

当麻「中々移動できねえよ…。」

動きを制限されている。

クルーク「うゝ…動くかゝ…。」

しぶしぶ移動を開始するクルーク。

クルーク「何で僕らが疑いをかけられないといけないのさ…。」

スネーク「此処からどう移動するか…。」

慎重に行動するスネーク。

スネーク「見つかったらお終いだからな…。」

その近くに…。

リデル「うう…人がいっぱいいます…。」

リデルだ。

リデル「…はう！？えつと…スネークさんですか？こんな所で背を低くして何をしているんですか…？」

スネーク「ああ。ハンターに見つからないように背を低くして行動しているんだ。」

リデル「そうなんですか…。」

そこに…。

兵士「…！」

兵士が接近…。

ピーッ！

リデル「きゃああー！！」

スネーク「不味い！逃げるぞ！」

バラバラに逃げる二人。

ハンター「…！」

近くにいたハンターが、笛の音を聞きつけた。

リデル「不味いです…！」

スネーク「ハンターいるのか…！？」

ハンター「…！」

ハンターに見つかってしまったのは…。

リデル「…！ハンターです…！」

リデルだ…。

リデル「キャアア…！」

ポン

リデル 確保 残り 28人

リデル「うう…残念です…。」

スネーク「はあ…はあ…！」

スネークは偶然にも王の城に着いた。

国王（演：新川）「！なんだね君は？」

スネーク「俺は怪しいものじゃない。」

大臣（演：KAITO）「ならば右腕を見せて下さい。」

スネーク「ことうか？」

国王（演：新川）「…どうやら君も違うようだな…分かった。これを持っていくがよい。」

スネーク 免罪符獲得

スネーク「ふう…なんとか疑いは晴らせたな。しかし…大丈夫なの

か…？」

アルル「あつ！『リデル確保。残り28人。』だって…。」

スネーク「あの後捕まったか…。」

レムレス「皆クリアできているのかな…？」

他の逃走者たちを心配するレムレス。

レムレス「…？これは…。」

レムレスが見つけたのは…。

レムレス「宝箱…あつ、通達の…。」

宝箱だ。この宝箱は通達1の宝箱である。

レムレス「もうすぐ120分だし…取っておくか。」

その中身は…。

ガタッ

レムレス「…黒い…サングラス？」

中に入っていたのは『無敵サングラス』。これを使えば1分間、ハ
ンターに追われなくなる。

レムレス「これはラッキーだね。さっそくもらっておこうかな。」

残る宝箱は1個！

シグナム「これは…。」

その宝箱をシグナムが見つけた。

シグナム「何だろう…。」

その中身は一体…。

ガタッ

シグナム「これは…双眼鏡？」

中に入っていた最後のアイテムは『双眼鏡』。これを使えば遠くにいるハンターも確認することができる。

シグナム「視野が狭くなるのは危険だが…無いよりはマシか？」

これで、すべてのアイテムが獲得された。

サタン「ほう…王の城、か…。」

王の城を眺めるサタン。

サタン「中々立派だが私が立てた私とアルルのスイートホームのD
Xサタン城と比べるとまだまだだな…。」

アミテイ「此処だ！王の城！」

十六夜「来れました…。」

インデックス「頑張ったらいけたよ！」

アミテイ、十六夜咲夜、インデックスが王の城に到着。

国王（演：新川）「君たちは…。」

アミティ「私たち、怪しいものじゃありません!」

大臣(演:KAITO)「じゃあ、右腕を見せて下さい。」

インデックス「はい。」

国王(演:新川)「…どうやら本当そうだな…。じゃあこれを…」

十六夜「ありがとうございます…。」

アミティ 十六夜咲夜 インデックス 免罪符獲得

アミティ「クリアできたね!」

ミッションをクリアした3人に…。

ハンター「…!」

ハンターが接近…。

アミティ「ハンター来たよ!」

十六夜「こ、こんな時に…。」

ハンターが視界にとらえたのは…。

十六夜「こっちですか…。」

十六夜だ…。

十六夜「私も負けてはいられません!」

建物角を利用し、ハンターとの距離を広げる。

ハンター「…?」

そして、ハンターを撒いてしまった。

十六夜「危なかったですね…。」

そのハンターが…。

霊夢「あと少し…。」

博麗に接近!

霊夢「…!ハンター…。」

そして、見つかってしまった…。

霊夢「さすがにこれは…。」

ポン

博麗霊夢 確保 残り 27人

霊夢「あと少しの所まで来ていたんだけどね…。」

幻想郷で最強と言われる博麗、ミッションをクリアできず…。

インデックス「怖かった…。」

アミティ「咲夜さん、大丈夫かな…？」

魔理沙「えっ！？霊夢が捕まった…！」

アルル「残り27人だって…。」

十六夜「此処から場所が近いですね…先ほどのハンターが…。」

ヴィータ「絶対に動かねえといけねえのかよ…。」

未だに動く気配のないヴィータ。

ヴィータ「もうクリアしている奴に連れて行ってもらおう…。」

誰かに電話をかける…。

ピリリ！ピリリ！

その相手は…。

シャマル『なんですか？電話してきて…。』

同じヴォルケンリッターの一人、シャマルだ。

ヴィータ「シャマルか！ミッションはもうクリアしたのか？」

シャマル『え、ええ。もうクリアしましたよ。』

ヴィータ「だったらあたしを王の城まで連れて行ってくれねえか？」

シャマル『え！？』

ヴィータ「あたしは城下町の宝石の館付近の草の茂みにいるから！」

シャマル『ちょ、ちよつと！』

ピッ！

シャマル「で、電話切れちゃった…。」

ヴィータ「自分で行くと思つかるからな…。」

他力本願の、ヴィータ…。

シャマル「頼まれたら…行くしかないですよね…?」

ヴィータのもとに向かうシャマル。

シグ「…行くか…。」

シグは移動を始めた。

シグ「こつちの方向か…。」

アイク「よし！着いた！」

美琴「なんとかたどり着けたわ…。」

当麻「この俺だって頑張れば来れたぞ！」

アイク、御坂美琴、上条当麻が王の城に到着。

国王（演：新川）「君たちは…。」

アイク「海賊じゃないし怪しい者でもない！」

国王（演：新川）「では右腕を…。」

アイク「ほらよ。」

国王（演：新川）「この人たちも違うみたいだな…。では、これを…。」

アイク 御坂美琴 上条当麻 免罪符獲得

当麻「よっしやー！！！！」

美琴「大きな声出さないでくれる！？ハンターに見つかったらどうすんのよー！！」

当麻「す、すまん…。」

現在残り時間 118分26秒 残る逃走者27人

MISSION? 4 (前書き)

平日に更新。

土曜参観で今日が代休になりましたので。

MISSION? 4

現在クリアできていないのはシグナム、ヴィータ、スバル・ナカジマ、ティアナ・ランスター、霧雨魔理沙、レミリア・スカーレット・フランドール・スカーレット、ラフィーナ、シグ、クルークの10人。

果たして全員クリアできるのか!?

フラン「まだ距離があるな〜…。」

王の城まで距離があるフラン。

フラン「行けるかな〜?」

たどり着けるのか!?

クルーク「慎重に…慎重に…。」

慎重に行動するクルーク。

クルーク「ハンターに見つかったら終わりだからね…。」

しかし、その近くにハンター…。

クルーク「…！いた…。」

ハンターを見つけ、急いでで隠れる。

クルーク「早く過ぎてくれよ…。」

ハンター「…。」

クルーク「言ったかな…？」

ハンター「…。」

見つからなかったようだ…。

クルーク「もう…だから動きたくないんだよ…。」

ティアナ「早く早く…。」

地図で顔を隠すティアナ。

顔を認識されなければ、住民には騒がれない。

レミリア「なんとか着いたわ…。」

レミリアが、王の城にやってきた。

国王（演：新川）「？なんだお前は？」

レミリア「早く…それを…」

国王（演：新川）「待て、まずはお前の右腕を見せてみる。」

レミリア「早くして…。」

国王（演：新川）「…どうやら違うようだ…ならこれを…」

レミリア・スカーレット 免罪符獲得

レミリア「早くしてよね…」

その後…。

スバル「よしっ…！」

ティアナ「なんとかたどり着いたわ…。」

ラフィーナ「やっと手に入れたわ…。」

スバル、ティアナ、ラフィーナが獲得。

スバル・ナカジマ ティアナ・ランスター ラフィーナ 免罪符獲得

これで獲得できていないのはシグナム、ヴィータ、霧雨魔理沙、フランドール・スカーレット、シグ、クルークの6人となった。

フェーリ「レムレス先輩…どこなの…。」

すでにミッションをクリアしたフェーリ。

フェーリ「…ハンター発見…。」

その近くにハンター…。

フェーリ「早く行ってくれないかしら…。」

その近くにもう一人の逃走者…。

黒子「免罪符獲得できてよかったわ…さてと…どうしましょう…。」

白井だ…。

ハンター「…。」

フェーリ「…。」

黒子「まずは逃げ場所を確保しておかなきゃね…。」

ハンター「…！」

ハンターが逃走者の姿をとらえた。見つかったのは…。

黒子「…！ハンター見つけたわ…。」

白井だ…。

フェーリ「ハンター走って行ったわ…。」

黒子「こっちに逃げましょう…。」

逃げた先は…。

黒子「な…！？行き止まり…！？」

そこは行き止まりだった。

黒子「…ハンター来たわ…。」

追い詰められた…。

黒子「くっ…。」

ポン

白井黒子 確保 残り 26人

黒子「行き止まりに追いつめられるなんて…不覚だわ…。」

アルル「『城下町付近にて、白井黒子確保。残り26人。』」

美琴「黒子が捕まった…。」

シエゾ「さて…隠れるか…。」

トンネルの下に隠れるシエゾ。

シエゾ「少しは闇があった方が良いな。落ち着く。」

闇の魔導師、トンネルの中に隠れる。

シャマル「ヴィータ…。」

ヴィータ「…！こつちこつち！」

シャマル「もう…探したわよ…。」

ヴィータ「とりあえず連れて行ってくれよ…。」

シャマル「もう…ってハンター来たわよ！」

ヴィータ「こんな時にか!？」

二人がハンターに見つかった。

シャマル「二手に分かれるわよ!！」

ヴィータ「お、おう!！」

二手に分かれる。ハンターが視界にとらえたのは…。

シャマル「こつちに来た!！」

シャマルだ…。

シャマル「不味い不味い…追いつかれる…。」

その近くに…。

フラン「もう少し…ってハンター連れてきてる!！」

フラン達…。

フラン「逃げよう!!」

シャマル「キャアアア!!」

ポン

シャマル 確保 残り 25人

シャマル「捕まった…。」

ヴォルケンリッターの一人、撃沈…。

ヴィータ「な、なんとか撒けたぜ…。」

ヴィータは無事逃げたようだ。

シグナム「シャマルが捕まったか…。」

フラン「さつき走ってた人…捕まっちゃった…はあ…はあ…。」

ヴィータ「…あ、お城だ…。」

ヴィータ、お城に到着。

クルーク「着いたよ〜…。」

クルークも着いたようだ…。

国王（演：新川）「誰だ!？」

ヴィータ「あ…免罪符…ちょ、それ…。」

大臣（演：KAITO）「待って下さい。まずは右腕を…。」

ヴィータ「ほらよ…。」

クルーク「無いから早くしてよ…。」

国王（演：新川）「…よしわかった。これを…。」

クルーク「はいはい…。」

国王（演：新川）「む?」

ヴィータ クルーク 免罪符獲得

フラン「怖かった〜…。」

フランがヴィータ達と入れ違いで到着。

国王（演：新川）「誰だね？」

フラン「怪しいものじゃありません！」

大臣（演：KAITO）「では、右腕を見せて下さい。」

フラン「はいはい…。」

国王（演：新川）「無いな…分かった。これを持って行きなさい。」

フラン「ありがとー!!」

フランドール・スカーレット 免罪符獲得

フラン「これで住民とかに騒がれないんだよね…。」

シグナム「不味いな…。」

シグ「全然たどり着けない…。」

魔理沙「住民がたくさんいて邪魔なんだぜ…。」

現在クリアできていないのはシグナム、霧雨魔理沙、シグの3人。

果たしてクリアできるのか!?

ゲーム残り時間 106分02秒 残る逃走者 25人

M I S S I O N ? 4 (後 書 き)

次回、ミッション2、終了！

M I S S I O N ？ 5 (前書き)

今回でミッション2は終了です。

果たして全員クリアできるのか!?

MISSION? 5

ミッションをクリアできていないのはシグナム、霧雨魔理沙、シグの3人。

彼らは王の城に行き、免罪符を獲得しなければならない。

果たして、クリアできるのか!?

シグ「早く行かなきゃ〜…。」

王の城に向かうシグ。

シグ「騒がれて捕まりたくないよ〜…。」

シグナム「主はやてはクリアしたのか…?」

八神を心配するシグナム。

シグナム「…王の城か…。」

王の城に着いたシグナム。

国王（演：新川）「誰だ!？」

シグナム「怪しいものではない…って何でお前が此処に？」

兵士2（演：クロノ・ハラオウン）「誰だお前。」

大臣（演：KAITO）「早く右腕を…。」

シグナム「あ、ああ…。」

国王（演：新川）「…無いようだな。ではこれを…。」

シグナム「済まない。」

シグナム 免罪符獲得

シグナム「恩に着る。お礼とは何だが握手を…。」

国王（演：新川）「あ、ああ。」

兵士1（演：リンク）「おいお前！王様に無礼な！！」

シグナム「お礼をしたただけだ。何か悪いか？」

兵士1（演：リンク）「ぐっ…。」

国王（演：新川）「…可愛い娘じゃったの…。」

兵士1（演：リンク）「王様！！」

兵士2（演：クロノ・ハラウン）「しっかりしてください…。」

これでクリアできていないのは二人。

クルーク「もう自首しよっかな…。」

自首を狙うクルーク。自首をすればそれまでの賞金を獲得できる。

クルーク「だって今36万円ぐらいでしょ…？もうそれぐらいでいいよ…。電話電話…。」

クルーク、自首に向かう。

魔理沙「不味いんだぜ…。」

住民1「あ！怪しい人…！」

魔理沙「不味い！見つかってしまったんだぜ…！」

住民が騒げば…。

ハンター「…！」

ハンターを呼び寄せる…。

魔理沙「もうこのままお城に一直線だぜ!」

急いで逃げる霧雨。

その霧雨の背後から…。

ハンター「…。」

ハンター…。

魔理沙「来ているんだぜ!」

建物の角をうまく使い逃げる霧雨。

ハンター「…?」

なんと、ハンターを撒いてしまった…。

魔理沙「はあ…はあ…ってお城に着いたんだぜ…。」

なんと、運よくお城に着いてしまった。

魔理沙「早く行くんだぜ…。」

国王（演：新川）「誰だ…?」

魔理沙「あ、怪しいものじゃないぜ!」

国王（演：新川）「右腕を見せてくれないか?」

魔理沙「こっか？」

大臣（演：KAITO）「無いですね…。」

国王（演：新川）「ではこれを…。」

魔理沙「ありがとうなんだぜ！」

霧雨魔理沙 免罪符獲得

魔理沙「クリアできたんだぜ…。」

これでクリアできていないのは…。

シグ「まだ着かないよ…。」

シグ、ただ一人！

シグ「早く行かなきゃ…。」

ティアナ「どこに隠れようかな…。」

エリアを移動中のティアナ。その近くに…。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

ティアナ「まずは此処が良いな…。」

ハンター「…！」

ハンターに気付かれた。

ティアナ「うん…ってハンター来てるじゃない!!！」

ティアナ・ランスター、逃げ切れるのか!?

ティアナ「ハンター速すぎるわよ!!！」

ポン

ティアナ・ランスター 確保 残り 24人

ティアナ「何で捕まったのよ!!…もう…。ミッションクリアしたのに…。」

シグ「不味いよ〜。」「

まだミッションをクリアできていないシグ。

シグ「…あ、ハンター…。」

ハンターを見つけた。

シグ「う〜。」「

スバル「皆クリアできているのかな…?」

アルル「大丈夫かな〜。」「

ハンター「…。」

シグ「向こうに行った…今行こう。」「

ハンターが遠く離れたすきにお城に向かう。

シグ「王様〜。」「

国王（演：新川）「何だね君は?」

シグ「怪しい人じゃないよ〜。」「

大臣（演：KAITO）「では右腕を見せて下さいますか?」

シグ「はい。」「

国王（演：新川）「無いよつだな…ではこれを持って行きなさい。」

シグ「ありがとう。」

シグ 免罪符獲得

全員 MISSION CLEAR

シグ「良かった〜クリアできた〜。」

ラフィーナ「あ、シグ。クリアできたの？」

シグ「あ、ラヘーナ。ラフィーナ。クリアできた。」

ラフィーナ「一瞬名前間違えたけど…まあいいわ。クリアできてよかったわね。」

シグ「う〜…。」

レミリア「…メール来たわ…。」

当麻「『全員が疑いを晴らし、ミッションクリア。』」

アイク「全員クリアできたのか！」

なのは「よかった！」

全員が疑いを晴らし、ミッションをクリアした。

果たして、逃げ切るものは現れるのか！？

ゲーム残り時間9分8秒23秒 残る逃走者24人

MISSION?5 (後書き)

次回、牢獄DEトーク。

牢獄DEトーク(前書き)

前回書いた通り、今回は牢獄DEトークです。

牢獄の者たちは何を語るのか…。

そして今回、黄色いあいつが出ます。

牢獄DEトーク

牢獄DEトーク

今回の牢獄は城下町の神秘の噴水近くに設置されている。

ピリリ…ピリリ…。

ウィッチ「あつ、メールが来ましたわ。」

ルイージ「なんて？」

ウィッチ「全員が疑いを晴らしたようですわ。」

アリス「皆晴らせたのね。」

リデル「よかったです。」

？「…。」

牢獄で会話していると先ほど捕まったティアナがやってきた。

ティアナ「は…：せっかくクリアしたのに…：。」

？「…。」

ドラコ「まあまあ、その話はこの中で…：。」

ガチャン

ティアナ「んで、聞きたいんだけど…。」

ドラコ「何？」

？「…。」

ティアナ「この牢獄の前にいるほのかにカレーの臭いのする生き物つばいの何？」

？「ぐ？」

ウィッチ「あ、それは…。」

ルルー「カーバンクルよ。」

カーバンクル「ぐっぐぐ〜！」

ティアナ「か、カーバンクル？」

マリオ「ほら、アルルつていただろ？なんかいつもはあいつと一緒にいる奴なんだってさ。」

ティアナ「あゝ…あの子と一緒にいる…って知らないわよ。」

黒子「今日はこの牢獄前にいるらしいですわ。」

リデル「えへへ。カーバンクルさん、アルルさんには逃げ切ってほ

しいですか？」

カーバンクル「ぐぐー!!」

ウィッチ「じゃあサタンは？」

カーバンクル「ぐぐー…。」

ルルー「シエゾはどうなの？」

カーバンクル「ぐぐぐぐー!!」

ドラコ「なんて言ったの？」

ルルー「さあ、アルルだけにしか分かんないわ。」

ティアナ「そうゆうもんなの？」

カーバンクル「ぐぐぐー!!」

ルルー「あ、牢獄の中に入って来たわ。」

リデル「カーバンクルさんも皆と一緒に話しされたいんですか？」

カーバンクル「ぐぐー!!」

リデル「じゃあお話ししましょうか。」

カーバンクル「ぐぐぐー!!」

シグナム「100分切ったのか…。」

現在ゲーム時間は残り100分を切っている。

シグナム「でも、まだまだこれからだな。気をつけなければ…。」

クルーク「自首…自首…。」

自首を狙っているクルーク。

自首をするにはエリアに設置された自首専用電話ボックスから自首を申告することで自首となる。

クルーク「もうすぐ何だけどな…。」

だがその近くに…。」

ハンター「…。」

ハンター…。」

クルーク「…電話…あつ、あつた！」

電話を見つけ、駆け付けるクルーク。

クルーク「自首！自首！」

ハンター「！」

クルーク「ええ！？ハンター！？」

ハンターが、クルークが向かっていた曲がり角からいきなり出て来た。

クルーク「うひゃひゃ〜！」

ポン

クルーク「何であんな所から出てくるの〜！？折角いけると思ったのに〜。〜」

クルーク、電話ボックス前でハンターに確保された…。

クルーク 確保 残り 23人

フェーリ「『クルーク確保…残り23人…。』あのメガネね…。」

シエゾ「こいつ自首しそうだったもんな…そのせいかな？」

フェイト「今回前より長く残れてる…。」

前々回の記録を更新中のフェイト。

フェイト「今回こそは…。」

レムレス「逃走中って怖いね〜いつハンター来るか分かんないし…。」

現在町広場を移動中のレムレス。

スタッフ「所で…何を食べているんですか？」

レムレス「あ、これ？これはキャンディーだよ。」

スタッフ「キャンディーですか…。」

レムレス「ほんとにはビスケットとか食べたかったんだけどのが渴くからね〜…あ、食べる？」

スタッフ「い、いえ… 仕事中なんで…。」

レムレス「そうなんだ。残念…。」

スバル「ハンター… 来てないかな…。」

ハンターに怯えるスバル。

スバル「こんなに怖いものなんですか… 逃走中って…。」

ハンターは神出鬼没。いつ、どこから来るかわからない。

十六夜「海賊… 何かありそうですね…。」

花園の丘と城下町をつなぐ橋でたたずむ十六夜。その近くに…。

シェゾ「いつ来ても… 逃げれる…。」

シェゾ・ウィグィイだ…。

シエゾ「…！不味い！」

ハンターを見つけ、階段を上がるシエゾ。

十六夜「どこに行きましょうか…。」

シエゾ「おいつ、ハンター来てるぞ！」

十六夜「ハンター…！」

十六夜も、巻き込まれた…。ハンターが視界にとらえたのは…。

十六夜「こつちですか…。」

十六夜だ…。

シエゾ「やべえ…あいつの方に行った…。」

十六夜「先ほど振り切りましたから…。」

さっきハンターを1回まいている十六夜。今回も逃げ切れるか！？

十六夜「曲がり道で…。」

ハンター「…？」

なんと、またハンターを撒いてしまった。

十六夜「また、撒けましたね…。」

恐るべき、身体能力…。

ラフィーナ「そう言えば海賊のことはどうなったのかしら？」

その頃…海賊は…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「さあ、もうすぐよ！」

着実に王国へ向かっていた…。

そして、王の城では…。

国王（演：新川）「むう…どうすれば…。」

大臣（演：KAITO）「王様、此処は私が…王様は跳ね橋を渡つた先にある宮殿に避難してください！」

国王（演：新川）「あ、ああ、わかった…！」

急いで部屋を出ていく国王。

大臣（演：KAITO）「…。（ニヤツ）」

不敵な笑みを浮かべる大臣…。

そして、宝石の館の前に、謎の人物が現れた！

その宝石の館の中には…。

ハンター「…。」

100体の、ハンター…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「なるほどね…じゃあ行かせてもらおうかしら！」

王国と、逃走者に、最大の危機が迫る！

ピリリ…ピリリ…

アイク「メール…ミッション3…。」

インデックス「えっ!?!」

レミリア「ちょっと…嘘でしょ…!?!」

アルル「ほんと〜!?!」

そのミッションの内容とは!?!

現在残り時間90分12秒 残る逃走者23人

牢獄DEトーク(後書き)

逃走者・確保者・自首者

逃走者 23人

高町なのは フェイト・T・ハラオウン 八神はやて シグナム
ヴィータ スバル・ナカジマ スネーク アイク 霧雨魔理沙 十
六夜咲夜 レミリア・スカーレット フランドール・スカーレット
上条当麻 インデックス 御坂美琴 アルル・ナジャ アミテイ
ラフィーナ シグ シェゾ・ウイグイイ フェーリ レムレス
サタン

確保者 12人

マリオ ルイージ ルルー ドラコケンタウルス ウィッチ アリ
ス・マーガトロイド リデル 博麗霊夢 白井黒子 シヤマル テ
イアナ・ランスター クルーク

自首者 0人

海賊が接近！MISSION？1（前書き）

他の作者さんの小説を見てみたら挿絵を使っていたんですが…。

やりたくてもできないのが僕。

登録とか全く分かんない。

あー…できたらいいな…。

アイク「作者がなんか愚痴ってる。」

霊夢「この作者、こつゆづの苦手だもんね。」

おい、余計なこと言うな…。

海賊が接近！MISSION？1

逃走者たちに降りかかったミッション3。

果たして、その内容とは！？

アイク「メール…ミッション3…。」

インデックス「えっ！？」

レミリア「ちょっと…嘘でしょ…！？」

アルル「ほんと…！？」

ヴィータ「『現在この王国に海賊が向かってきている。』」

フラン「『海賊はこの王国に上陸した後、住民から金品を奪いながら城下町にある宝石の館へと向かう。』」

スバル「『海賊が向かう宝石の館には…。』えっ！？」

はやて「『1000体のハンターが仕掛けられている。』1000体！？」

シグ「うへ〜1000体…。」

フェーリ「『海賊が宝石の館にたどり着き、扉を開ければ1000体

のハンターがエリアに放出される。『そんなことになったら逃げ切れるわけ無いじゃない!!』」

シエゾ「逃れるには王の城の近くにある跳ね橋を渡り、新エリアへ移動するしかない。』」

レムレス「『ただし、跳ね橋は残り71分にならないと渡れず、1分間しか跳ね橋は渡れない。』1分間つてことは…。」

アミテイ「え〜!?!1分間だけ〜!?!」

当麻「100体つて…無理だろ…。」

サタン「跳ね橋…くそつ…絶対に移動しないとイケないのか…。」

ミッション3 新エリアへ移動せよ!

現在この王国に海賊が向かっている。

海賊は、上陸すると住民から金品を奪い、城下町にある宝石の館へと向かっている。

その宝石の館の中には100体のハンターが仕掛けられており、海賊が扉を開けるとともに、100体のハンターがエリアに放出される。

逃れるには王の城の近くにある跳ね橋を渡り、新エリアへ移動するしかない。

ただし、跳ね橋は残り71分にならないと渡れず、跳ね橋は1分間しか渡れない。

ちなみに跳ね橋を渡れなかった逃走者がいた場合、タイマーが停止

し、取り残された逃走者全員が確保、自首で旧エリアからいなくなるまでゲームを続行する。

美琴「すぐに向かっても渡れないってことね…。」

シグナム「よし…すぐに行こう！」

アイク「不味い不味い不味い!!」

なのは「早く行かなきゃ…。」

十六夜「こんなことになるなんて…。」

エリアには4体のハンター。彼らの搜索を交わしながら跳ね橋に向かわなければならない。

魔理沙「不味いんだぜ…。」

サタン「くそっ…。」

アルル「あと…18分もあるけど…早く行かなきゃ！」

シグ「あれ？跳ね橋ってどこ？」

偶然、跳ね橋近くにいたシグ。

シグ「残り71分にならないと渡れないのか。じゃあ待つぞ。」

跳ね橋の近くで待機する。

インデックス「早く行か…！」

ハンターを見つけ、急いで隠れるインデックス。

インデックス「こんな時に限って…。」

ハンター？「…。」

だが背後からもハンター…。

インデックス「早く行って…。」

ハンター？「…！」

見つかった…。

インデックス「…うわぁ！後ろからも来てたー！」

ハンター「！」

さらに別のハンターにも見つかった！

インデックス「嘘おおおお！！！！！」

ポン

インデックス 確保 残り 22人

インデックス「うぐっ…とうま…」

レミリア「『花園の丘にてインデックス確保。残り22人。』
『捕ま
つてきてるね…』」

当麻「インデックス捕まった…」

フェーリ「…！レムレス先輩…」

フェーリ、レムレスと合流…

レムレス「フェーリ！」

フェーリ「先輩…このまま跳ね橋へ行きましょう…」

レムレス「うん…そうだね…。」

はやて「早く向かわんとなあ〜…。」

現在水路沿いの道を移動中の八神。

はやて「100体やろ？そんなん出たら逃げ切れへんて。」

サタン「アルルは…。」

アルルを探すサタン…。

サタン「…ん？あれは…？」

サタンが見つけたのは…。

シグナム「此処からだと…この城の後ろだな…。」

シグナムだ…。

サタン「おいつ、跳ね橋はどっちだ？」

シグナム「跳ね橋か？この王の城の後ろにある。」

サタン「そうか…済まないな…。」

シグナム「あ、ああ。捕まるなよ。」

アイク「ハンター来てねえかな…？」

並木道を移動中のアイク。

アイク「…！ハンター発見…。」

しかし、移動中にハンターを発見…。

アイク「…。」

ハンター「…。」

アイク「…。」

ハンター「…。」

気付かれなかったようだ。

アイク「はあ…はあ…見つからなかったな…。」

アルル「え〜と…此処から…って…。」

アルルが何かを見つけた。見つけたのは…。

アルル「電話ボックスじゃん〜！」

見つけたのは自主用電話ボックス。今、自首を申告すればその時点の賞金を獲得できる。

アルル「ダメだダメだ！自首は考えちゃいけない！」

しかし、自首はせず通り過ぎて行った…。

スネーク「此処か…。」

スネークも跳ね橋に到着…。

シグ「おお、スエーク。スネーク。」

スネーク「名前を一瞬间違えられたな…まあいい。今何分だ？」

シグ「え〜と〜…84分。」

スネーク「と、言うことはあと13分待たなきゃ開かないのか…。」

シグ「僕は此処で待ってる。」

スネーク「俺は近くの建物の死角に隠れている。」

シグ「そうか。じゃあ虫でも探しとこ〜」。

スネーク「…。(汗)随分呑気だな…。」

ヴィータ「…跳ね橋はこの近くか…だが今行っても渡れない。ギリギリまで此処で隠れておくか…。」

レムレス「跳ね橋はすぐには渡れない。橋がつないだ瞬間ダツシュで渡ろう。」

フェーリ「はい！先輩！」

スバル「早く行かなきゃ…。」

エリアを移動するスバル。

スバル「はあ…はあ…っ!」

しかし、ハンターを見つけ、急いで隠れる。

スバル「こんな時に…。」

ハンターに足止めされて、自由に動けない。

シエゾ「ハンターに見つからずに着いたな。」

アミティ「なんとか着いたよ！」

シエゾ、アミティも跳ね橋に到着…。

シエゾ「待つてる間に見つかったら終わりだ…。」

アミティ「気をつけないと…。」

果たして全員跳ね橋を渡り、新エリアへと移動できるのか！？

現在残り時間 8 分 31 秒 残る逃走者 22 人

MISSION? 2 (前書き)

アイク「作者が挿絵を使ったらどうなると思うっ？」

フラン「ぐちゃぐちゃになる。」

クルーク「汚くなる。」

フェーリ「読む人がいなくなる。」

酷すぎるだろお前ら!!!!

MISSION? 2

逃走者たちにミッション3が発動された。

宝石の館の扉を海賊が開けると100体のハンターが放出される。

逃れるには残り71分から1分間のみ渡れる跳ね橋を渡り、新エリアに移動しなければならない。

現在跳ね橋近くで待機しているのはシグ、スネーク、シエゾ・ウィグィイ、アミティの4人。

果たして、全員無事に新エリアへ移動できるか!?

当麻「うわ〜…遠いな〜…。」

跳ね橋まで、距離がある上条。

当麻「でも此处でくよくよしているわけにはいかねえんだよ!」

サタン「よし、跳ね橋近くに着いたぞ。」

跳ね橋近くまでやってきたサタン。

サタン「まだか…よし、どこかでハンターに見つからないようにいとくか。」

近くの物陰に隠れる闇の貴公子…。

シグナム「ハンター…いないな…。」

ハンターがいないことを確認するシグナム。

シグナム「よしっ…向かうぞ！」

レムレス「フェーリ…もうすぐだよ…。」

フェーリ「はい…先輩…。」

二人いつしよに行動するレムレスとフェーリ。

レムレス「…！隠れて…ハンターだ…。」

フェーリ「えっ！？」

レムレスがハンターを見つけ、近くの茂みに隠れる。

レムレス「ハンターが通り過ぎるまで待とう…。」

フェーリ「は、はい先輩…。（先輩が、こんなに近い…。）」
ハンター「…。」

無事、見つからなかったようだ。

レムレス「通り過ぎて行っただね…行こう！」

フェーリ「跳ね橋へ…。」

跳ね橋へ向かう！

レミリア「着いたわ…。」

はやて「間に合ったわ…。」

シグナム「主！無事でしたか！」

美琴「到着…。」

レミリア・スカーレット、八神はやて、シグナム、御坂美琴が跳ね橋付近に到着。

美琴「へえー…跳ね橋付近って見晴らしが良い場所ね…。」

シグナム「これのおかげだな…。」

フラン「ハンター来ないでよね〜」。

現在背をかがめて移動中のフラン。

フラン「あー…不味いなー…」。

彼女の近くにハンター…。

フラン「…！いたいた…」。

フランもハンターを見つけた…。

フラン「通り過ぎてってよね…」。

ハンター「…」。

フラン「…来るな…」。

…ガサツ。

ハンター「…！」

見つけた…。

フラン「うわぁ！？」

急いで逃げるフラン。しかし、かなりの至近距離…。

フラン「いやあああああ……!!!!!!」

ポン

フランドール・スカーレット 確保 残り 21人

フラン「あいつに負けた〜!長く生き残りたかったのに〜!!」

ピリリ…ピリリ…。

レムレス「フランドール・スカーレット確保。残り21人。」

レミリア「確保されちゃったわね…。」

ヴィータ「そろそろ移動するかあ…。」

移動を開始したヴィータ。

ヴィータ「何で移動しなきゃいけないミッションが二つも来るんだよ…。」

しゅしゅと移動する…。

アルル「まだ遠いな〜。」「

まだ跳ね橋まで距離があるアルル。

アルル「急がないと…カーくんになんて言われるか…。」「

現在たどり着けていないのは…。

なのは「う〜ん…。」「

アイク「遠い…。」「

当麻「距離がある…。」「

高町なのは、フェイト・T・ハラオウン、ヴィータ、スバル・ナカ
ジマ、霧雨魔理沙、十六夜咲夜、アイク、上条当麻、アルル・ナジ
ヤ、ラフィーナ、フェーリ、レムレスの12人。

果たして間に合うのか!?

アイク「…おっ、フェイト。」「

フェイト「あ、アイク君。」「

アイク、フェイトと合流。

アイク「ハンター見かけたか？」

フェイト「いや、今ん所は…。」

ハンター「…。」

だが、二人の近くにハンター…。

フェイト「跳ね橋までは距離があるよね…。」

アイク「そうだな…ハンター来たぞ！」

フェイト「えっ!?!？」

ハンターに見つかった二人。

逃げ切れるのか!？

ゲーム残り時間77分12秒 残る逃走者21人

MISSION? 2 (後書き)

今回短かったですね。

フェイト、アイク、逃げ切れるのか!?

MISSION?3 (前書き)

前回

ハンターに見つかってしまったフェイトとアイク。

彼らは無事、逃げ切れるのか!?

いろんな作者さんから感想が来てとても嬉しいです。

これからもがんばっていきます!

MISSION?3

フェイト「跳ね橋までは距離があるよね…。」

アイク「そうだな…ハンター来たぞ!」

フェイト「えっ!?!」

ハンターに見つかってしまった二人!

ハンターが視界にとらえたのは…。

アイク「こっちかよ…!」

アイクだ…。

アイク「できれば最後まで残したかったんだけどな…ほらよ!」

ポン!

ハンター「!?!」

アイクは手に入れていた捕獲網を使い、ハンターの動きを止めた。

アイク「今のうちに…。」

ハンターが動けない隙に遠くへ逃げるアイク。

フェイト「はあ…はあ…ちょっと跳ね橋には…近づいたかな…。」

十六夜「跳ね橋に到着しました。」

跳ね橋に着いた十六夜。

十六夜「あと来ていませんの…。」

ヴィータ「着きましたと…。」

ヴィータも跳ね橋に到着。

ヴィータ「このまま下がりがきるまで待機しておきますか…！」

そして…城下町に…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「さあ、着いたわよ…。」

海賊が、到着！

住民1「キヤーー！！」

住民2「うわああ！！」

住民3「は、跳ね橋に逃げろー！！」

逃げ惑う住民たち…逃走者が向かう跳ね橋へ向かう…。

そして、海賊は…。

船員1（演：キヨン）「船長！宝石の館はこの先です！」

船長（演：涼宮ハルヒ）「ええ…分かってるわ…。」

100体のハンターが仕掛けられている宝石の館へ向かう…。

黒子「住民が逃げ惑っていますわよ…。」

リデル「あつ、海賊が来ました！」

シャマル「あれが船長じゃないんですか…？」

ルイージ「あれ？でもどつかで…。」

霊夢「第1回目の逃走中に出ていた涼宮ハルヒじゃない？」

マリオ「本当だ！でも何で…。」

クルーク「ってか僕たちも危くないか？」

ウィッチ「そうですねよ！海賊が来たら…。」

フラン「その時は「きゅっとしてドカーン」を…。」

ドラコ「ごめん。それだけはやめて。」

なのは「うわっ！跳ね橋下がるまであと少しじゃん！急がないと！」

アルル「ボクも急いでいかないと…って海賊じゃん！」

海賊を見つけたアルル。

アルル「もうすぐなんだ100体ハンター…不味い!!！」

フェイト「跳ね橋に着いた〜…。」

アイク「無事…着いた…。」

フェイト、アイクも跳ね橋に到着した。

フェイト「あつ、アイク君！大丈夫だった!？」

アイク「ああ、最初の通達の宝箱に入っていた捕獲網を持っていたからそれを使って逃げて来た。」

フェイト「そうなんだ…なのははまだなんだね…。」

なのは「…！不味い…。」

ハンターを見つけた高町。

なのは「急いでるって言うのに…。」

ハンターに足止めを食らい、中々自由に動けない！

レムレス「着いたよ、フェーリ。」

レムレス、フェーリの二人が到着。

レムレス「見えない場所に隠れておこう。」

フェーリ「はい…。」

アミティ「ねえねえ…下がるまであと何分?」

シグナム「えつと…今が75分だから…あと4分だな。」

アミティ「まだ時間あるね…。」

そして…。

国王（演：新川）「早く跳ね橋へ…。」

兵士1（演：リンク）「王様、こちらです。」

王も、城から逃げ出した。

なのは「此処から向こうへ行ったら…。」

スバル「あつ、なのはさん！」

魔理沙「まだ着いていなかったのか？」

高町なのは、スバル・ナカジマ、霧雨魔理沙の3人が合流。

なのは「うん…此処から先へ行ったらいいんだけど…。」

スバル「…あつ！隠れて下さい！ハンターがいます！」

なのは「あつ…。」

ハンターを見つけ、隠れる3人。

なのは「あのハンター通り過ぎて行ったら行くところ……。」

魔理沙「……！」

ダッ

なのは「あつ、ハンターいるよ！」

魔理沙「ハンターの後ろを通り過ぎていけば大丈夫だぜ！」

魔理沙はハンターが通り過ぎて行った所を突いて走っていく。

ハンター？「！」

しかし、別のハンターに見つかった！

魔理沙「はあ……はあ……。」

スバル「……あつ！ハンターが……。」

なのは「魔理沙ちゃんの方に走って行った……。」

魔理沙「はあ……。」

しかし、霧雨は後ろから来るハンターに気付いていない！

魔理沙「はぁ…はぁ…。」

タッタッタツ…。

魔理沙「…へ？ってうわぁー！！！！」

ポン

霧雨魔理沙 確保 残り 20人

魔理沙「マジかよ…ちつくしよ…！！」

なのは「今行く？」

スバル「行きましょう！」

なのは、スバルは跳ね橋へ向かう！

シグ「おお…住民が集まって来た…。」

アミティ「もうすぐだよね！」

跳ね橋で待機する15人。

はやて「まだ下りへんのかいな…。」

住民にまぎれて跳ね橋を待つ八神。

スネーク「橋が下がった瞬間、一気に走っていく。」

サタン「此処からならハンターが来ても大丈夫だな。」

近くの建物の死角に隠れるスネークとサタン。

シエゾ「…まだか…。」

跳ね橋を渡るタイミングをうかがうシエゾ。

そして、まだたどり着けていないのは…。

当麻「早く早く…。」

高町なのは、スバル・ナカジマ、上条当麻、アルル・ナジャ、ラフ
イーナの5人！

彼らは無事、跳ね橋にたどり着けるのか！？

ゲーム残り時間 7分21秒
残る逃走者 20人

MISSION? 3 (後書き)

今回アイクが使用した捕獲網。

アイク以外にアイテムを持っている逃走者たち。

レムレス 無敵サングラス

シグナム 双眼鏡

高町なのは 秘密の地図

なのはが持っている「秘密の地図」。

なのは「本当にこれ、どこで使うの?」

それは言えません。

MISSION? 4 (前書き)

今回のミッションは王国編の例のミッションです。

と、言うことは例のあれも…？

それは楽しみに、しててください。

MISSION?4

現在跳ね橋にたどり着けていないのは5人。

彼らは、無事、ミッションをクリアすることができるのか!?

当麻「早く行かねえと…ハンターが…」

跳ね橋へ急ぐ上条。

当麻「絶対に今回は賞金取りたいんだ〜!〜!」

レムレス「お…あれは…」

レムレスが見つけたのは…。

兵士1(演:リンク)「王様、あともうすぐです!」

王様だ…。

はやて「あつ…王様も来たんや。」

フェーリ「…?あの隣にいた人は…?」

その頃…宝石の館の前では…。

？「くくく…もうすぐだ…もうすぐ私の計画が…成功する…くくく…」

謎の人物がいた…。

跳ね橋が渡れるようになるまであと…1分半！

当麻「水路沿いの道から行こう！」

水路沿いの道に向かった上条。

なのは「着いた！」

スバル「あとは待つだけですわね。」

高町なのは、スバル・ナカジマが到着。

跳ね橋が、下がりきるまであと…1分！

ラフィーナ「あれが宝石の館…？不味いわ…ハンターが放出されたら…。」

アルル「間に合わないよ…。」

当麻「うわ…時間がねえ…。」

そして…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「着いたわ…開けるわよ…。」

船員（演：キョン）「はい…。」

船長（演：涼宮ハルヒ）「せーの…。」

ガチャ！

ダダダダダダダ…。

100体のハンターが…放出された…。

ラフィーナ「…！ハンターが…。」

アルル「ハンター出て来たよ…！」

まだ跳ね橋まで付いていない二人。間に合うのか…？

そして…。

5…。

4…。

3…。

2…。

1…。

跳ね橋が、渡れるようになった…。

はやて「今や！」

八神はやて MISSION CLEAR

はやて「…！」

レムレス「行くよ！」

フェーリ「はい！」

アイク「よしっ…。」

フェイト「行けた行けた…。」

シグナム「渡れたぞ…！」

アイク フェイト・T・ハラウン シグナム MISSION
CLEAR

十六夜「頑張りましょう…お嬢様…。」

レミリア「ええ…。」

スネーク「クリア…。」

シエゾ「よし！」

美琴「クリアね…あいつ…まだクリアしていないのかしら…？」

アミティ「やったよ！」

ヴィータ「移動めんどくせえけど…ハンターには捕まりたくないな…。」

サタン「クリアだ！」

なのは「行けた！」

スバル「早く…！」

十六夜咲夜 レミリア・スカーレット スネーク シェゾ・ウイグ
イイ 御坂美琴 アミティ ヴィータ サタン 高町なのは スバ
ル・ナカジマ MISSION CLEAR

シグ「…おっ、渡れるようになってる…。」

レムレス「ひとまずは…。」

フェーリ「先輩…。」

シグ レムレス フェーリ MISSION CLEAR

シグ「ミッションクリアだ〜。」

現在クリアしていないのは…3人…。

アルル「不味いよ〜…!!！」

ラフィーナ「此処からどうやって…。」

当麻「跳ね橋が…！」

エリア、分断まで…。

10…。

9…。

8…。

3
⋮
。

4
⋮
。

5
⋮
。

6
⋮
。

7
⋮
。

2
…。

？「ま、間に合った…。」

1
…。

ギリギリでミッションをクリアしたのは…。

当麻「俺もクリアできたぞー!!」

上条当麻だ…。

そして…。

これで…旧エリアは104体のハンターによって埋め尽くされた。

ラフィーナ「どーやってこの中を逃げればいいのよー!!」

104体のハンターがいるエリアの中では…。

ハンター「!!!」

ラフィーナ「うわぁ!?!」

すぐにハンターに見つかってしまっ!

ラフィーナ「いや、ちよ、キャアアアア!?!?!?!」

ポン

ラフィーナ 確保 残り 19人

ラフィーナ「こんなの無理よ…!!」

104体のハンターの標的は…。

アルル「不味いよ…!!」

アルル・ナジャ…。

アルル「下手に動けないよ…。」

ただ一人!!!

アルル「此処に隠れておこうかな…。」

ハンター「…。」

ハンター? 「…。」

ハンター? 「…。」

ハンター? 「…。」

ハンター? 「…。」

アルルに忍び寄る黒い、波…。

アルル「うん…ってうわあ…!」

ハンター「!!!」

見つかった…。

アルル「怖い怖い怖い!!! って前からこんなたくさん来た…
!?!? うわああ!!!」

ポン

アルル・ナジャ 確保 残り 18人

アルル「ううう…。どーして…?」

アルル・ナジャ、大量のハンター前にはたんきゅ…。

そして…宝石の館では…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「宝石がたくさんあるわね…。」

バン！バン！

船員たち「!!!??」

船長（演：涼宮ハルヒ）「来たわね…。」

船長の前には、謎の人物…。

その、謎の人物がフードを脱いだ。

その謎の人物の正体は…。

MISSION?4 (後書き)

はい、次回、ちょっとゲームを中断してあれをします。

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦1（前書き）

今回ゲームを一時中断します！

そして、あれを行います！

さあ、その結果は!？

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦1

牢獄

クルーク「残ってる人たちはクリアしたのか？」

マリオ「はあ…俺情けないな…一番最初に捕まって…」

アリス「もう一回ゲームに参加できないかしら？」

黒子「お姉さまに会いたいですわ…」

ルルー「私はサタンさまに…」

インデックス「この二人は趣旨が違っただけ。」

そのころ…宝石の館では…。

大臣（演：KAITO）「では…こちらに…」

船長（演：涼宮ハルヒ）「ええ…それにしても…この黒いのは何なのかしら？」

大臣（演：KAITO）「邪魔ですね…。少し、片づけてくれませんか？」

船長（演：涼宮ハルヒ）「そうね…。みんな、こいつ等を少し片づ

けてくれないかしら？」

船員たち「はい。」

そして、104体のハンターのうちの44体が倒され、その数は60体となった。

船長（演：涼宮ハルヒ）「少し、片付いたようね。」

大臣（演：KAITO）「これくらいでいいでしょう。ではこちらに……。」

ピリリ……ピリリ……。

霊夢「…あ、メールが来たわ。」

ウィッチ「なんて書いてありますの？」

霊夢「えっと……通達2……。」

リデル「通達……？」

クルーク「内容は何なのさ？」

霊夢「今から読むから落ち着きなさい！えっと……『これより、ゲームを一時中断し……』」

ルルー「ゲームを中断？」

ドラコ「一体何をやるの？」

霊夢「『これより敗者復活戦を行うー！』」

マリオ「え！？敗者復活！？」

ルイージ「やったー！！」

フラン「内容は！？」

霊夢「えつとね…『王の城の近くの港に停泊している船に10分以内に乗り込めば、ゲームに復活できる。』」

アリス「王の城の近くの港？」

霊夢「まだ続きが…『海賊たちがハンターの数を減らしたため、敗者復活戦は60体のハンターで行われる。』」

ルイージ「やったー！」

マリオ「お前、今の所、やったーしか言っていないぞ？」

ルイージ「そうなの！？」

通達2 敗者復活戦！！

牢獄にいる逃走者たちに敗者復活のチャンスが与えられた。

王の城の近くの港に停泊している船に乗り込めば、ゲームに復活できる。

ハンターの数は、海賊が一部を倒したため、60体で行われる。

敗者復活戦 対象者

シャマル ティアナ・ランスター マリオ ルイーゼ 博麗霊夢
霧雨魔理沙 フランドール・スカレット アリス・マーガトロイ
ドインデックス 白井黒子 アルル・ナジャ ラフィーナ ルル
ー ウイツチ ドラコケンタウルス リデル クルーク 以上17名

霊夢「王の城の近くの港に泊まっている船に乗り込めば復活できるわよー!!」

魔理沙「そうかー!!」

シャマル「復活していい所見せたい…!!」

そして…。

敗者復活戦開始まで…。

5…。

4
∴。

3
∴。

2
∴。

1
∴。

プシュー！

敗者復活戦が、開始した…。

魔理沙「やったぞー！！」

インデックス「また行けるんだ〜！」

ルイージ「自由だー！！！」

ハンター「！」

しかし、近くにいたハンターに見つかった。

インデックス「うわぁ〜！」

黒子「ハンターが来ましたわ〜！」

ルルー「さっそく〜!？」

ハンターが視界にとらえたのは…。

ルイージ「僕〜!？」

ルイージだ…。

ルイージ「しょっぱなからこれ〜!？」

ポン

ルイージ「そんなのないよ〜!!僕大声で自由だ〜って言ったのに
〜!〜!」

ルイージ、脱落…。

ルイージ 失格

しかし、エリアにはハンターが60体もいる。そう簡単に復活できるわけもなく…。

アリス「いや〜!！」

ポン

アリス「無理よこんなの!！」

ティアナ「くっ…ハンター1体来たわ…。」

ハンター? 「!！」

ティアナ「つて前からも〜!？」

ポン

ティアナ「多すぎよ〜!!」

ラフィーナ「不味い不味い…って来たわ!!」

ハンター「!」

ハンター?「!」

ラフィーナ「って2体も有りなの〜!?!」

ポン

ラフィーナ「多すぎるわよ!!…どうやって復活しろって言っの!?!」

3人が確保されてしまった…。

アリス・マーガトロイド ティアナ・ランスター ラフィーナ 失格

シャル「はあ…はあ…って来ました!」

シャルがハンターに見つかった!

シャマル「いやあ〜！」

ポン

シャマル「復活できるの〜!?!」

シャマル 失格

霊夢「不味いわ…ハンターがうるちよろしくてとても危ない状況だわ…。」

ハンターを見つけ、急いで隠れる霊夢。

霊夢「見つかった瞬間終わりね…。」

クルーク「レムレスにいい所をひとつは見せないと…。」

エリア移動中のクルーク。

しかし…。

ハンター「！」

ハンター？「！」

ハンター？「！」

3体のハンターに見つかった！

クルーク「うわあ来たあ〜！！！」

しかし、3体のハンターに追われている…。

クルーク「いぎゃ〜！」

ポン

クルーク「何で3体のハンターが来るんだ〜！？」

復活するのは、そう簡単なことではない…。

クルーク 失格

現在船を目指し、向かっているのはマリオ、博麗霊夢、霧雨魔理沙、

フランドール・スカーレット、インデックス、白井黒子、アルル・ナジャ、ルルー、ウィッチ、ドラコケンタウルス、リデルの11人。

果たして彼らは無事、復活できるのか!?

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦1（後書き）

残っている11人は見事復活できるのか！？

歡喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦2（前書き）

アイク「…あれ？作者はどこに行った？」

美琴「そのゲーセンで何かしてるんじゃない？」

アイク「じゃあ出てくるまで待つておこう。」

…。

ふーっ！クリアできた。

アイク「おい馬鹿作者！何していたんだ！」

うわっ！アイク！何ってゲーセンでタイタツを…。

アイク「んなことより勉強しろやああ…！！！」

ぎゃあああああ…！！！！！！！！

美琴「…ちよつと、こんな馬鹿なことしていないでたまにやるタイトルコールやるわよ…！！」

アイク「そ、そうだな…では…。」

美琴・アイク「逃走中、どうぞ…！！」

酷い…。

フェーリ「当たり前よ…。」

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦2

敗者復活戦が始まった。

復活するには10分以内に王の城の近くの港に停泊している船に乗り込めば復活できる。

しかし、エリアには60体のハンター。

現在残っているのはマリオ、博麗霊夢、霧雨魔理沙、フランドール・スカレット、インデックス、白井黒子、アルル・ナジャ、ルルー、ウィッチ、ドラコケンタウルス、リデルの11人。

果たして彼らは無事復活することができるのか!?

現在復活ゲーム終了まで6分30秒…。

インデックス「不味いよ〜…ハンターがうるちよろしてるよ〜…。」

ハンターを見つけ、動けないインデックス。

インデックス「でも復活はしたいな〜…。」

リデル「不味いです、ハンターに見つかりました!」

ハンターに見つかったリデル！

リデル「きゃあぁ〜！」

ポン

リデル「うう…残念です…。」

リデル 失格

ウィッチ「もうちょっとで着きますわ…。」

船まで100メートルに迫るウィッチ。

ウィッチ「此処まで来たなら復活したいわ…。」

しかし、背後からハンター…。

ウィッチ「…！不味いですわ…ハンターが迫ってきてますわ…。」

ハンターを見つけ、急ぐウィッチ。

ハンター「…。」

そして、追いかけるハンター…。

果たして、その決着は…!?

ウィッチ「やりましたわ!!」

ウィッチだ…。

ウィッチ 復活

ウィッチ「おーほっほ…!復活ぐらい簡単ですよ…!」

フラン「あ、ハンター…。」

ハンターを見つけ、背を低くするフラン。

アルル「あ…ハンターいた…。」

アルルもハンターを見つけた…。

ハンター「！」

フラン「来た！」

アルル「不味い！」

二人とも、ハンターに見つかった！

？「…！？」

だが、二人のうちのどちらかに巻き添えになった逃走者がいた。その逃走者とは…。

霊夢「何してんよ…！」

博麗だ…。巻き添えにしたのは…。

アルル「じゅめ〜ん…！」

アルルだ…。

霊夢「ちよつと！置いていかないでよ！」

アルルが博麗を追い抜き、ハンターの標的が博麗に変わった。

霊夢「ちよつと…嘘でしょ!?!」

ポン

霊夢「何ですよ!?!あとちよつとだったのに…。」

博麗霊夢 失格

フラン「不味いよ〜ハンターたくさん来てるよ〜!?!」

ハンターから逃げるフラン。

フラン「嫌だ〜!?!」

ポン

フラン「復活できると思ったのに…何で？」

フランドール・スカーレット 失格

マリオ「よっしゃ！船が見えて来た！」

その頃、マリオがあと60メートルと言う所まで来ていた。

ウィッチ「…！こっちですわ！こっち！」

マリオ「わかってる！」

そして…。

マリオ「ふっかーっ！…！」

マリオ 復活

ウィッチ「よくあの中から復活できましたわね。」

マリオ「そうゆっお前もだろ。」

復活ゲーム終了まであと3分！

ドラコ「うわ！不味い！！」

ドラコがハンターに見つかった！

ドラコ「って前からたくさん来た〜！いきや〜！！」

ポン

ドラコ「うへ〜。。。」

ドラコケンタウルス 失格

アルル「こっちだね。。。」

船まであと75メートルのアルル。

アルル「早く行こう。。。」

ハンター「！」

アルル「え！？」

ポン

アルル「…え？」

ハンターと鉢合わせになってしまった。

アルル・ナジャ 失格

これで残っているのは…。

ルルー「サタン様…もうすぐですわ…。」

インデックス「たくさんいっぱい食べたいんだよ…。」

黒子「お姉さまの元に…。」

魔理沙「絶対に復活してやるんだぜ…。」

霧雨魔理沙、インデックス、白井黒子、ルルーの4人。

復活ゲーム終了まであと2分！

インデックス「…！ハンター来た…。」

ハンターを見つけたインデックス。

インデックス「もうすぐだからね…。」

しかし、背後からハンター…。

ハンター「…！」

見つかった…インデックスは気付いていない。

インデックス「今なら大丈夫かな？」

ボン

インデックス「…へ？ちょっと待って…終わり〜！？」

インデックス 失格

ルルー「絶対に復活してやるわ…！」

しかし…。

ハンター「…！」

背後から、ハンター…。

ルルー「！不味いわ！このまま船に駆け込むわよ！」

船に向かうルルー。その距離、およそ80メートル！

ルルー「此処で捕まりたくない！」

決着は…。

ルルー「い、いや〜！」

ポン

ルルー「何で！？もうすぐそこよー！！」

ハンターが一枚上手だった。ルルー、船目前で確保…。

ルルー 失格

トンネルを進もうとする黒子。

黒子「この先に行けば…。」

トンネルをくぐりぬけた先に…。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

黒子「！不味いわ…いったん戻るわ…。」

制限時間まであと1分。間に合うのか!?

魔理沙「あとちょっとなんだぜ!」

船まで160メートルの所まで来た霧雨。

しかし、曲がった角の先に5体のハンター…。

魔理沙「…うわっと!たくさんいた!」

見つけた…。

魔理沙「嫌なんだぜ…あともうちょっとの所まで来たんだから…
う、うわー!」

ポン

魔理沙「あとちょっとだったのに…悔しいぜ…。」

霧雨魔理沙 失格

これで残るは白井黒子、ただ一人!

黒子「お姉さまと一緒に…逃走成功したいんですわ…だからここで負けるわけには…。」

復活ゲーム終了まであと30秒。

黒子「！船ですわ！」

船に急ぐ白井。

マリオ「…！こっちだ！」

ウィッチ「あと少しよ！早く！」

黒子「はあ…はあ…。」

終了まであと20秒！

黒子「はあ…はあ…たどり着きましたわ…。」

白井黒子 復活

マリオ「あと少しじゃんか！」

ウィッチ「ギリギリでしたわよ！」

黒子「本当ね…。」

復活したのは…ウィッチ、マリオ、白井黒子の3人！

これで、逃走者が21人に増えた！

マリオ「絶対に逃げ切ってやるぞー！」

次回、新エリアでの逃走劇が始まる！

歓喜と絶叫の復活ゲーム！敗者復活戦2（後書き）

サタン「ん？今の所確保されていない逃走者たちが目立っていない
気がするんだが…。」

シグナム「気のせいではないか？」

なのは「気のせいでしょう。」

ゲーム再開！（前書き）

恐怖のゲームが再開する……。

逃走者は21人。

逃げ切るものは……現れるのか！？

ゲーム再開！

此処は…新エリア…。

なのは「来たよ…。」

ゲーム再開前、エリア内に散らばる逃走者たち！

マリオ「復活したからには復活できなかった人たちの分も頑張りたいと思う。」

ウィッチ「ちょっと待って下さい…前回のエリアより狭くなくて？」

シェゾ「此処は…静かな森だな…。」

レムレス「此処でまずは様子を見るか…。」

そして…。

今宵「…よし…。」

ゲームマスター、今宵によって新エリアに4体のハンターが転送された…。

レミリア「ちょっと待って！？もうすぐ始まるの！？」

ゲーム再開まで…。

7

8

9

1
0

4

5

6

3

2

1

ハンター「…！」

ダダダダ…。

恐怖のゲームが、再開した…。

シグナム「始まったな…。」

ゲーム時間は70分から再スタート。

1秒100円ずつ増えており、この70分間を逃げ切れれば先ほどの時間と合わせて賞金96万円を獲得できる。

ヴィータ「此処は隠れ場所が多くていいな…。」

フェーリ「…森…。」

新エリアはエリア中心から見てエリア中心と南東部分が港町となっており、北西部分が王の宮殿が建つ庭園で、北東部分は森が広がっており、その中心部分にはきれいな湖が広がっている。

広さは東京ドーム3・5個分と前エリアの半分ほどの広さである。

この中を21人の逃走者が逃げる。

サタン「ふう…まさかアルルが捕まってしまうとはな…アルルの分も頑張らないとな…。」

スバル「自首する気は全然ないです！！自首なんて絶対にしません！！」

さらに、このゲームでは自首も可能。エリア内の2か所に設置された自主用電話ボックスから申告することで自首が成立、その時点での賞金を獲得できる。

ただし、エリア内には4体のハンター。彼らに捕まれば失格、賞金

は、0…。

美琴「新エリア…狭いわね…。」

新エリアは前エリアの半分ほどの広さ。

美琴「エリアが狭くなった分ハンターに会う可能性も高くなっているわね…。」

その通りだ…。

なのは「…？この地図…。」

なのはが見ているのは通達1で手に入れた秘密の地図。

なのは「あ、この地図…このエリアの形と一緒だ！」

秘密の地図に書かれていた地形は新エリアの地形と全く一緒だったのだ。

なのは「この印がある所…気になるな…行ってみよう！」

その印がある所には一体何があるのか！？

スネーク「この庭園…いい所だな…。」

庭園に潜むスネーク。

ハンター「…。」

その近くにハンター…。

スネーク「うーむ…！ハンターか…。」

ハンターを見つけたスネーク。

スネーク「…。」

ハンター「…。」

スネーク「…行ったようだな…。」

気付かれなかったようだ。

スネーク「何とか危機は去ったな…。」

その頃…。

カキイン！カキイイン！！！！

剣士（演：古泉一樹）「はっ！とぉー！！」

宮殿の庭園で二人の剣士が練習をしていた。

カキイイイイン！！！！！！

剣士（演：古泉一樹）「あっ！！」

すっ…。

剣士が、もう一人の剣士の剣を弾き飛ばすともう一人の剣士の顔に剣を突き付けた。

剣士（演：古泉一樹）「王子、さすがです…。」

王子（演：マルス）「君もだよ。」

剣士は剣を拾い上げる。

剣士（演：古泉一樹）「やはり…伝説の剣は王子にふさわしいですね…。」

王子（演：マルス）「ああ、この国に伝わる伝説の剣士が所有していた剣のことか…確かこの国に攻めて来た海賊1000人をその剣士はたった一人で倒したと言う伝説だな…そのあとにその剣士はこの王国のどこかに剣を封印したと言うが…その封印場所は僕にも分からない。まあ、何事も起こらない平和な日常が一番さ。」

剣士（演：古泉一樹）「…はい。」

王子（演：マルス）「…あれは…。」

国王（演：新川）「くそっ！くそっ！！王国を乗っ取られてしまった…。一体どうしたらいいんじゃない…。」

王子（演：マルス）「王様！一体どうしたんですか!？」

王子と剣士は国王の元に駆け寄る。

国王（演：新川）「ああ…王子か…。王国が、海賊によって乗っ取られてしまった…。」

王子（演：マルス）「海賊…。」

国王（演：新川）「ああ…それと大臣がその海賊と手を組んでいたらしく大臣が新しい国王となったようなんだ…。」

王子（演：マルス）「あいつですか…。」

国王（演：新川）「王子よ、一体どうしたら…。」

兵士1（リンク）「大変です王様!！」

国王（演：新川）「どうしたのじゃ?」

兵士2（演：クロノ・ハラオウン）「海賊たちがこちらに向かって侵入しようとしてきます!！」

国王（演：新川）「な、何だと!？」

兵士1（演：リンク）「こちら側に責められるのも時間の問題です
」!

王子（演：マルス）「むう……。 （此処は伝説の剣に…しかし…一体
どこにあるんだ…。」

シエゾ「此処は…湖か…。」

森の中にある湖にやって来たシエゾ。

シエゾ「?あれは…。」

シエゾは湖の真ん中にある離れ小島にやって来た。

シエゾ「…何だこれは?だいぶ時間がたっているようだが…。」

そこに…。

なのは「あっ、シエゾ君!」

なのはがやって来た。

シエゾ「あ、ああ…お前か…。」

なのは「この地図なんだけど…地形がほら。」

シエゾ「本当だな…この印がこれなのか？」

なのは「一体何これ？」

シエゾ「さあ、俺には分からない。」

と、その時…。

『助けて…。』

なのは「!？」

何かが訴えかけるような声が聞こえて来た。

なのは「ねえ…シエゾ君…今何か言った？」

シエゾ「?何も言っていないが…。」

なのは「…え?じゃあ今のは一体…。」

『助けて…!』

なのは「!今声が…。」

シエゾ「何を言っているんだ?何も聞こえないぞ?。」

なのは「え？」

どうやら謎の声はなのはにしか聞こえていないようだ。

シエゾ「此処は見つかりやすいな…悪いが先に移動してる。」

なのは「あつ…。行っちゃった…。」

シエゾはなのはを置いてどこかに行った。

なのは「でも…一体…誰？」

『私たちは…この森に住む妖精です…』

なのは「妖精…？」

『はい…現在この国が海賊の手に侵されています。この王国を…海賊の手から救ってください！』

なのは「でも…一体どうしたら…。」

『私たちが王子様の元に連れて行って下さい。』

なのは「王子？」

『はい、宮殿前にいる王子様の元に連れて行って下さい。』

なのは「でも…どこにいるの？」

『あ、申し訳ありません。私たちは此処です。』

パッ

なのは「うわっ！」

すると、なのはの目の前に二人の小さな妖精が現れた。

なのは「あれ？でもどこかで見たことある……。」

妖精1「気のせいではないでしょうか……？」

なのは「うん……そうかも……。所で名前は？」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「私はミントと言います。」

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「私はマナと言います。」

なのは「そう……よろしくね！」

マナ（演：アインハルト・ストラトス）「はい、では参りましょう！」

なのは「うん！」

シエゾ「あいつは一体誰と話していたんだ……？一人で勝手にしりもちを着くし……。」

シエゾが会話している所を見ていた。

シエゾ「まさかあいつには特別な力が…。」

果たして、この国の運命は!?

ゲーム終了まで64分12秒 残る逃走者21人

ゲーム再開！（後書き）

最近実力テスト、期末テストが近付いてきています。

そのため更新が遅れる可能性があります。

感想返信もなかなかできなくなると思います。

でも頑張って更新はしていきます。

では、よろしくお願いします。

王国の運命は（前書き）

太鼓の達人の新しい機体がこの11月以内に出るらしい。

これは絶対にやらねば……！

王国の運命は

大臣の陰謀によって乗っ取られてしまった王国。

そして、この国に伝わる伝説…。

逃走者たちがこの国で起こる様々な出来事に巻き込まれていく…!

フェーリ「森は静かね…。」

森の中でたたずむフェーリ。

フェーリ「…!」

フェーリが何かを見て急いで隠れた。それは…。

なのは「はぁ…はぁ…。」

走って来た高町だ。

フェーリ「何で走っているのかしら…ハンターが来てる…?」

当麻「うわゝ…不味いなゝ…此処は視界が悪いな…。」

港町にやって来た上条。

当麻「いきなりハンター来たら捕まるな…。」

シグ「うゝ…。」

森を移動中のシグ。

シグ「虫さんどこかなゝ…。」

ハンター「…。」

その近くに、ハンター…。

シグ「うゝ…あつ、いた。」

ハンターを見つけたシグ。

ハンター「…！」

ハンターにも見つかった。

シグ「うわゝ不味いゝ。」

逃げるシグ。

シグ「うわゝ。助けてゝ。」

ポン

シグ 確保 残り 20人

シグ「捕まっちゃったゝ…。」

美琴「森の中にてシグ確保。残り20人。」

アミティ「シグが捕まっちゃったゝ！」

はやて「庭園かゝ…。」

庭園に潜む八神。

はやて「広いし隠れ場所も…って不味い不味い…。」

しかし…。

ハンター「…。」

ハンターを見つけた。

はやて「早く行ってくれや…。」

ハンター「…！」

しかし、見つかった…。

はやて「不味い！見つかってしまった！」

庭園の中を、逃げる八神。

はやて「うわあああ…！！！」

ポン

八神はやて 確保 残り 19人

はやて「う、嘘や…。」

最強の魔導師、此処に散る…。

シグナム「なっ！？主が確保だと…！？」

ヴィータ「オイオイマジかよ…。」

フェーリ「連続で確保ね…。」

ウィッチ「宮殿大きいですわね…。」

宮殿を眺めるウィッチ。そこに…。

なのは「ここ？王子さんがいるところって…。」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「はい、此处です。」

高町がやって来た。

ウィッチ「…！何々…。」

なのは「あ、あの人かな？」

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「はい、あの人です！」

ウィッチ「何で走ってるのかしら？」

なのは「王子さん…。」

王子（演：マルス）「はい、何でしょうか？」

なのは「え？マルス君…だよね？」

王子（演：マルス）「いや、人違いだと思いますが…所でその肩のは…。」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「私たちは伝説の勇者が使用していた剣を守護する妖精です。」

王子（演：マルス）「妖剣を守護する精!？」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「はい。」

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「あなたは、選ばれし者なのです。」

王子（演：マルス）「僕が…。」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「はい、では私たちについてきてくれませんか？」

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「剣の場所まで案内します。」

王子（演：マルス）「わ、わかりました。」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「ここまで案内してくださっておりがとつございました。」

なのは「いやいや…。」

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「お礼と言っては何ですが…あなたたちを追っている黒いのを1体消してあげましょうか？」

なのは「ほ、本当!？」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「はい。」

なのは「あの…だったらお願いします…。」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「分かりました。では…。」

ピカアアア…。

ハンター「…!」

ボン!

ハンター1体 消滅

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「これで完了です。ではこちらに…。」

王子（演：マルス）「わ、わかりました!」

そして、妖精と王子は森の中に向かって行った。

なのは「何だったんだろう…。」

そこにウィッチがやって来た。

ウィッチ「あなた何を話していたの？」

なのは「え、妖精さん達と…。」

ウィッチ「妖精…？そんなのいたかしら…？」

なのは「え！？いたよ！私の肩辺りで…。」

ウィッチ「いや、見えませんでしたわよ？」

なのは「そ、そんな…本当なんだけど…。」

ウィッチ「ふぐん…私の見間違いかしら？」

ピリリ！ピリリ！

フェイト「何々…。」

レミリア「『高町なのはの活躍によってハンター1体が消滅。合計3体となった。』」

シエゾ「ほんとかこれは！？」

フェイト「なのはすげー！」

つ剣があつた。

王子（演：マルス）「これが…前節の勇者が使っていた…。」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「さあ…これでこの国を救ってくだ
さい！」

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「海賊たちから王国を救
うのです！」

王子（演：マルス）「分かった…では行こう！」

船員「王子が来たぞ！」

船員「やっつけちまえー！」

王子（演：マルス）「この国を…救って見せる！はああー！」

カキイイーン！！！

船員「ぐわああー！！」

王子（演：マルス）「はああー！！…！」

船員「ぐわっ！！」

船長（演：涼宮ハルヒ）「やってくれるわね…あなたたち、やって
しまいなさい！！」

船員たち「はい！」

王子（演：マルス）「僕は…お前たち海賊には…負けない!!」

カキイイイン!!!!!!!!

船員たち「ぐわあああ!!!!!!」

船長（演：涼宮ハルヒ）「嘘っ…。」

チャキ…。

王子（演：マルス）「観念しろ。」

船長（演：涼宮ハルヒ）「ぐっ…。」

国王（演：新川）「!王子!」

王子（演：マルス）「王様…海賊たちをやっつけました!」

国王（演：新川）「何と!一体どうやって…その肩にいるのは?」

妖精1（演：高町ヴィヴィオ）「私たちは剣を守護する妖精です。」

国王（演：新川）「まさか…伝説の勇者の…!?!」

妖精2（演：アインハルト・ストラトス）「はい。王子によって王

国は、海賊の手から救われました。」

国王（演：新川）「そうか…よくやったぞ王子！」

王子（演：マルス）「いえいえ…。」

国王（演：新川）「国を挙げてお祝いをするのじゃ！」

家来たち「ははーっ！！！」

そして…王の城の近くの木には…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「くっ…。」

大臣（演：KAITO）「くそっ…くそっ…くそおおおお！！！！」

海賊の船長と大臣がしぼりつけられていた。

逃走者たちの協力によって王国は救われた。

しかし、まだゲームは終わらない！！

ゲーム残り時間58分43秒 残る逃走者19人

王国の運命は（後書き）

最近逃走中の情報がちょっとだけ入ってきている。

どつちやら埼玉県のどこかで収録したらしい。

気になる…放送日…。

MISSION? 1 (前書き)

此処からあいつらが絡みだします。

そして、ミッション4発動…。

MISSION? 1

逃走者たちの協力によって王国は救われた。

しかし…。

恐怖のゲームはまだ、終わらない…。

サタン「ハンター1体が減ったのは大きいな…。」

先ほど、高町なのはの活躍によってハンター1体が消滅した。

サタン「これは…行けるかも…。」

スネーク「ハンター1体減ったから少しは安心だな…。」

シエゾ「いける…逃げ切れる!」

レミリア「ハンター減ってもいなくなったわけじゃないんでしょ？
だから油断はできないわ…。」

シグナム「…！ハンターが近付いてきてる…。」

双眼鏡でハンターの接近に気付くシグナム。

シグナム「此処から離れよう…。」

レムレス「今何分？…まだ60分切った所か…。」

庭園に隠れるレムレス。

その彼に…。

ハンター「…。」

近づくハンター…。

レムレス「まだ…ってハンター！？」

ハンター「！」

気付かれた…。

レムレス「残したかったけど…仕方ないか…。」

レムレスはもっていた無敵サングラスをかける。

ハンター「…？」

ハンターは追うのをやめた。

レムレス「確か1分だけ？此処から離れておこつか…。」

そのハンターが…。

アミティ「皆のためにも頑張らないとね！」

アミティに接近！

ハンター「！」

見つかった…。

アミティ「うん…って来てる…！！！」

ハンターに見つかったアミティ。逃げ切れるのか！？

アミティ「うわわわ…！！！」

ヴィータ「追いかけてられているぜ…。」

その様子を見ているヴィータ。

ヴィータ「ありゃあ無理だな…ぶらぶら馬鹿みたいに呑気に歩いて
いるから見つかるんだよ…。」

アミティ「わああああ……!!」

ポン

アミティ 確保 残り 18人

アミティ「みんなごめ〜ん……。」

ぷよぷよ主人公、此処ではたんきゅ〜……。

ピリリ……ピリリ……。

フェイト「えつと……確保情報……。」

シグナム「『アミティ確保。残り18人。』」

シエゾ「あかぷよ帽のやつか……。」

ヴィータ「やつぱり捕まったな!動くよりも動かない方がいいって
言っのにね……。」

美琴「あら……。」

なのは「あつ……。」

御坂が、高町と合流。

美琴「あなた確かハンター1体消したらしいわね……。どつやって消したの？」

なのは「あの、なんかいろんなことしたら消してくれて……。」

美琴「ちよつとそのこと教えてくれない？」

なのは「あ、あのね……。」

と、そこに……。

アイク「はあ……はあ……。」

アイクがやって来た。

美琴「あら、どうしたの？そんなに息を切らして……。」

アイク「ハンターが来てる！」

なのは「えっ!？」

アイクはハンターを見かけて逃げて来たようだ。

アイク「早く逃げた方がいい!捕まるぞ！」

美琴「分かったわ！」

御坂、高町もつられて逃げる。

ハンター「…。」

ハンターがやって来たが見つからなかったようだ…。

アイク「良かった…。」

フェイト「まだミッションあるのかな？まだ結構時間あるし…。」

その頃…。

？「もう終わりか…つまらないな…。」

逃走中の様子を観察している謎の男…。

？「もうちょっと盛り上げるためにこんなので送っておくか…。」

すると、男はある操作をし…。

パアア…。

カチャン！！

大臣（演：KAITO）「ん？何だこれは…刃物か…？」

大臣の近くに刃物が転送された。

大臣（演：KAITO）「よし…これでこの縄を切れる…。」

大臣は刃物を使い縄を切り、脱出する。

大臣（演：KAITO）「早いとここんな所はおさらばだ！」

そして、港町に泊まっている船に向かう…。

剣士（演：古泉一樹）「何！？大臣が逃げました!？」

兵士2（演：クロノ・ハラウン）「はい…先ほど確認したら縄を切られていて…。」

剣士（演：古泉一樹）「今すぐに探し出せ！そしてとらえるんだ！」

兵士1（演：リンク）「は、はい！」

剣士（演：古泉一樹）「探させるのは他のやつらに任せる！お前たちは宮殿前で協力してくれる人たちにこれを渡せ！」

兵士1（演：リンク）「わかりました！」

そう言つて、渡されたのはアイクが持っていた捕獲網と似たような網鉄砲だった。

此処は…コントロール室…。

ピーッ！ピーッ！

今宵「！？な、何だ！？…これは！？」

今宵は、今起きた出来事を見て、驚愕する。

今宵「こんなことはまず起こらないはず…だとすると外部のものが何かしたな…。」

今宵は考え込むが…。

今宵「まずはこの事をどうするかだ…よし、ミッションとして発動するか…。」

そして、港町に泊まっている船にハンター10体が設置された。

ピリリ！ピリリ！

フェーリ「何々…！？ミッション！？」

レミリア「『大臣が逃げだした。』」

シグナム「『大臣は港町に泊まっている船に向かっていて、船に乗

り込み、この国から逃げ出そうとしている。』諦めの悪い奴だな…。」

スバル「『残り35分になると、大臣が船にたどり着き、それと同時にハンター10体が放出される。』は、ハンター10体!？」

レムレス「『それを阻止するには宮殿前にいる兵士たちから網鉄砲を貰い、それで大臣をとらえなければならない。』」

アイク「網鉄砲…?」

ミッション4 ハンター10体放出を阻止せよ!

大臣が逃げだし、港町に泊まっている船に向かっている。残り35分になると到着し、それと同時にハンター10体が放出される。

それを阻止するには宮殿の前にいる兵士たちから網鉄砲を貰い、それで大臣をとらえなければならない。

マリオ「ハンター10体って不味いぞ!!」

スバル「もちろん行きます!ハンター増やしたくはありませんから!!」

フェイト「やっと活躍できるので行きます!!」

なのは「行かないとダメでしょ!!」

美琴「もちろん行くわ!」

当麻「行くぜ!!」

黒子「お姉さまと一緒にクリアしますわ!!」

アイク「どうかな?…さっきハンター見たからな?…行きたくないな…。」

ヴィータ「誰かやるだろ!ミッションやっていい人ぶろつとする偽善者がさ!」

サタン「任せるか…。」

シエゾ「めんどくせえ…。」

十六夜「遠いので…任せます…。」

逃走者たちに発動されたミッション4!

ハンター10体の放出を防げるのか!?

ゲーム残り時間54分21秒 残る逃走者18人

MISSION?1 (後書き)

逃走者たちはハンター10体放出を防げるのか!?

MISSION? 2

逃走者たちにミッション4が発動された。

大臣を残り35分までにとらえないとハンター10体が放出される。

果たして、逃走者たちは大臣をとらえることができるのか!?

フェイト「これは行かないと!」

ミッションに果敢に向かうフェイト。

フェイト「やっと活躍ができるし…あと10体は不味いから!」

ハンター放出阻止に向かう。

ウィッチ「よつと、此処ですわね。」

宮殿の近くにいたため一番乗りでやって来たウィッチ。

ウィッチ「あなたたち、何してますの?」

兵士1(演:リンク)「いや、大臣をとらえてくれるやつを探しているんだが…。」

ウィッチ「じゃあ協力してあげますわ！」

兵士1（演：リンク）「本当か！じゃあこれを使ってくれ！」

ウィッチ 網鉄砲獲得

兵士（演：リンク）「使い方はだな…こうでこうだ。」

ウィッチ「わかりましたわ。では行って来ますわ！」

ウィッチ、大臣捕獲に向かう！

ウィッチ「でもどこにいるんでしょうか…。」

その頃…大臣は…。

大臣（演：KAITO）「不味いな…今港町を進むとやつらに気付かれる…遠回りになるが森の中を進んでいこう…。」

森の中へと向かって行っていた…。

レムレス「誰かやってくれないかな…。」

ミッションに消極的なレムレス。

レムレス「さつき無敵サングラス使ったからね〜…あつたら行つていたけど…。」

十六夜「きれいな海ですね…。」

海を眺める十六夜。

ハンター「…。」

そこにハンター…。

十六夜「…！ハンターいました…。」

ハンターを見つけて逃げる十六夜。

十六夜「はあ…はあ…。」

しかし…距離はだんだん縮まっっていく…。

十六夜「…っ…！」

ポン

十六夜咲夜 確保 残り 17人

十六夜「悔しいですね…ミッションに行った方が良かったかもしれ
ません…。」

スネーク「確保情報…。」

スバル「『十六夜咲夜確保。残り17人。』」

レミリア「ついに捕まってしまったのね…。」

サタン「こいつ…逃げ切りそうだったんだが…。」

スバル「着きました！」

フェイト「あつ、なのは！」

なのは「フェイトちゃんも来たんだ!!」

美琴「着いたわ…。」

スバル・ナカジマ、フェイト・T・ハラオウン、高町なのは、御坂
美琴が到着…。

兵士1（演：リンク）「あなたたち…協力してくれるんですか？」

スバル「大臣の捕獲に協力してあげるわ！」

なのは「だからそれを…。」

兵士1（演：リンク）「わかりました！では…。」

スバル・ナカジマ フェイト・T・ハラオウン 高町なのは 御坂
美琴 網鉄砲獲得

スバル「よし…これで捕まえるぞー！」

しかし、大臣の捕獲に向かえばハンターに遭遇する危険性が高まる！

ヴィータ「何だよ…誰も行っていないのか…！？メールが来ないぞ…！」

クリアのメールが来ないことに腹を立てているヴィータ。

ヴィータ「ちっ！どいつもこいつも役に立たない奴らだなあ！早くクリアしろよ…。」

愚痴をこぼす…。

ヴィータ「そっぴやリーダーはミッションに行くのか？」

シグナム「うゝむ…此処からこう行って…。」

ピリリリ！ピリリリ！

シグナム「うおお！何だ何だ…ヴィータからか？」

ピッ

シグナム「何だ？電話かけてきて…。」

ヴィータ「リーダーはミッションに行くのか？」

シグナム「行こうと思っている。さすがにこの狭さで10体は不味いからな…。」

ヴィータ「そうか…。」

シグナム「ヴィータの方はどうなんだ？」

ヴィータ「行ってみるだけ行ってみる…。」

シグナム「そうか…捕まるなよ！」

ヴィータ「リーダーもな！」

ピッ

ヴィータ「リーダー…行ってミッションクリアしてくれ…。」

フェーリ「あら…宮殿から近いわね…。」

現在宮殿近くにいるフェーリ。

フェーリ「行ってみようかしら…。」

だが、進む先にハンター…。

フェーリ「…！ハンターいた…！」

ハンター「！」

見つかった…。

フェーリ「何よ…来てるじゃない…嫌…捕まえないで…嫌嫌嫌嫌あ
ああ…！！！！！」

ポン

フェーリ 確保 残り 16人

フェーリ「先輩…いい所を見せられませんでした…。」

レムレス「えっ！？フェーリも確保！？」

アイク「どんどん捕まって行っている…。」

黒子「お姉さま…どこの…。」

御坂を探す白井。

黒子「…！」

しかし、見つけたのは…。

ハンター「…。」

ハンター…。

黒子「不味いですわね…。」

ハンターが通り過ぎるのを待つ…。

ハンター「…。」

黒子「…。」

ハンター「…。」

見つからなかったようだ…。

黒子「危なかったですの…。」

マリオ「こつちだな…。」

ミッションに向かうマリオ。

マリオ「今いい所全然ないし…此処で少しでもいい所を見せられたら…。」

ハンター「…。」

レミリア「行ってるのかしら…。」

シエゾ「行かねえよ…だってめんどくせえから…。」

サタン「動いたら見つかりやすくなるからな…。」

ウィッチ「早く見つけないと…。」

ハンター「…!」

ハンターが逃走者をとらえた。見つかったのは…。

シエゾ「んな…ハンターかよ!」

スネーク「不味いな…エリアが狭いからどんどん確保されて行っているぞ…。」

当麻「あいつ捕まったか…。」

スタッフ「ミッションにはいかないんですか？」

アイク「行かないな…。」

ミッションに参加しないアイク。

アイク「今たくさん確保されているし…捕まりそうだからな…。」

現在大臣は森の中を移動中。果たして、捕獲できるのか！？

ゲーム残り時間47分32秒 残る逃走者15人

MISSION? 2 (後書き)

サタン「前書きのことだが今からあるヒントを言う。これにピンと来るやつはいないと思うがまあ言うておこじう。」

内容のヒント「フ」

サタン「では次回もヒント」言わせるかあああ……!」あああ……!」

アイク「もつと言うとフ席」うおりゃあああ……!」肉……う……!」

シグナム「なんかカオスの方向に近づいていないか？」

フラン「それは大丈夫よ。全く近づいていないから。」

シグナム「そうか。」

ちなみにヒントはフ席です。これでピンときたらすごい。

まあ増えたりはすると思いますが。

ちなみに現在逃走者たちによると僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中のDVDが発売しているらしいです。(今の所全1巻)

MISSION?3 (前書き)

えー…今回この「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中!」
王国に迫る危機」でついに…。

祝・10000アクセス突破！

アイク「マジかー！」

サタン「奇跡とは起こるものだな。」

アリス「そうよねえ。」

カーバンクル「ぐぐぐ。」

これもみなさんの応援のおかげです！

これからも頑張っていきます！

レムレス「ためることは無いよね？」

はい、そうですね。すいません。

MISSION? 3

逃げる大臣を残り35分までに捕獲しなければ10体のハンターが放出される！

現在大臣を捕獲する網鉄砲を持っているのはウィッチ、スバル・ナカジマ、フェイト・T・ハラオウン、高町なのは、御坂美琴の5人！
果たしてミッションをクリアできるのか！？

ウィッチ「中々見つからないですわね…。」

現在大臣を探しているウィッチ。

ウィッチ「多分港町にいたと思ったんですが…見当違い？」

なのは「分かれて探してみない？そっちの方が早く捕まえられると思っし…。」

美琴「そうね。その方がいいわ。」

なのは「じゃあこうしない？」

高町なのは フェイト・T・ハラオウン 森

御坂美琴 港町

スバル・ナカジマ 宮殿の周り

スバル「わかりました！では行つてきます！」

なのは「行こう、フェイトちゃん！」

フェイト「うん、なのは！」

美琴「じゃあ探しに行きましょうかね…。」

果たして大臣を見つけれられるのか!?

牢獄

霊夢「まだミッションクリアのメール来ないの!？」

シャマル「確か10体のハンターでしたよね？」

ルイーザ「そんなに放出したら全滅になっちゃっよ!」

インデックス「早く来ないかな…。」

アルル「どつなつちやうんだろっ」。

カーバンクル「ぐぐぐ。。。」

スネーク「俺も行ってみるか。。。」

スネークもミッションに向かう！

ヴィータ「早くクリアしろよ。。何してんだよ。。！」

愚痴を言っているヴィータ。

ハンター「。。。」

そこにハンター。。。

ヴィータ「くそっ。。！！」

ハンターを見つけ、隠れるヴィータ。

ヴィータ「何でハンターが来るんだよ。。早く行けよ。。！」

ハンター「。。。」

ヴィータ「気付くな…。」

ハンター「…。」

ヴィータ「…あぶね…。」

どうやらやり過ぎたようだ。

ヴィータ「今捕まったら賞金が飛んでいくからな…気を付けねえと…。」

果たしてヴィータは賞金を獲得できるのか!?

シグナム「着いた…。」

マリオ「おーい!」

シグナム、マリオが到着…。

兵士1（演：リンク）「お前たちも協力してくれるのか?」

シグナム「ああ。協力する。」

マリオ「だから…それを…。」

兵士1（演：リンク）「わかった。」

シグナム マリオ 網鉄砲獲得

シグナム「しかし一体どこにいるのか…。」

マリオ「絶対に捕まえて汚名返上だ！」

シグナム、マリオも大臣を探す…。

レムレス「此処まで怖いことってないよね…。」

庭園の中にいるレムレス。

レムレス「さっきはなんとか撒けたけど次は分かんないよね…。」

その彼の近くに黒い影…。

？「…。」

レムレス「あそこで使ったのが惜しかったな。」

？「…。」

レムレス「ほんとに…!!！」

サタン「す、彗星の魔導師か…。」

サタンだ…。

レムレス「所で…ミッションはやるの？」

サタン「先ほど3人連続だからな…少し様子見だ。」

レムレス「僕もね…。」

サタン「だが今は3体だろう？何で3人連続も確保されたんだ？」

レムレス「そうだよね…一体何があるのかな…。」

サタン「さあな…。」

フェイト「いないな…。」

大臣を探すフェイト。

フェイト「なのは…見つけた？」

なのは「いないよ…この森広いからね…。」

フェイト「でもどこかには確実にいる、探し出そう！」

なのは「うん…！」

レミリア「誰が行ってるのかしら…。」

東方project組の生き残りとなったレミリア。

そこに…。

ハンター「…。」

ハンター…。

レミリア「はあ…待ってるの暇だわ…。」

ハンター「…！」

見つかった…。

レミリア「…ってちょっと来てるじゃない！」

ハンターを見つけ、一目散に逃げるレミリア。

レミリア「ちょっと速すぎよ！ちょ…キヤアアア！！！」

ポン

レミリア・スカーレット 確保 残り 14人

レミリア「もう…悔しいわよ！」

東方project組…全滅…。

スバル「レミリアさんが確保されましたか…。」

魔理沙「ってこれ東方組全滅じゃんかよ！」

霊夢「ちよつと…。」

スネーク「不味い…。」

シグナム「時間が迫ってきている…。」

なのは「あ！いたあ！」

大臣を見つけた高町。

なのは「これで捕まえるんだよね！」

高町は大臣に近づく。

大臣（演：KAITO）「!？」

なのは「えいつ！」

ポンッ

高町によつて大臣は…。

大臣（演：KAITO）「あ…危なかつた…。」

捕獲されなかつた…。

なのは「あー！不味い！届かなかつた！」

届かなかつた…。

フェイト「なのは！」

なのは「フェイトちゃん！大臣が…。」

フェイト「わかつた！」

フェイトは大臣がいた方向に行くが…。

フェイト「…！ハンター！」

そこにハンター…。

なのは「ハンターいたの？」

フェイト「うん…今行っても捕まるだけ…。」

なのは「そう…ごめん、私が捕まえられなかったばかりに…。」

フェイト「いいよ。そんなことよりここを離れよう。」

なのは「うん、分かった…。」

大臣（演：KAITO）「危なかった…。」

大臣は、逃れたようだ…。

当麻「どこだよ一体…。」

未だにたどり着けていない上条。

当麻「あー…どこだ…。」

アイク「まだメール来ないな…。」

港町にいるアイク。

ハンター「…。」

そこにハンター…。

アイク「うん…ってハンター…！」

ハンター「…！」

ハンターに見つかったアイク。

果たして逃げ切れるのか！？

ゲーム残り時間 4 1 分 3 2 秒 残る逃走者 1 4 人

MISSION?3 (後書き)

シエゾ「前回の続きどうする?」

サタン「言ったらまたなんか言われそうだな…。」

シエゾ「そうだな…。」

サタン「ま、気にせず」「言わせないいい!…!」「ぎゃああああ!」

シエゾ「…。」

MISSION? 4 (前書き)

ハンターに見つかってしまったアイク。

果たして…その運命は!?

MISSION? 4

アイク「まだメール来ないな…。」

アイクに迫る…。

ハンター「…。」

ハンター…。

アイク「うん…ってハンター!!」

ハンター「!!」

ハンターに見つかってしまったアイク。

果たして逃げ切れるのか!?

アイク「くっそ…!!もう捕獲網使ったから逃げるしかねえのかよ…!!」

アイクは建物の角を曲がり、ハンターとの距離を広げていく。

ハンター「…?」

そして、ハンターを撒いてしまった。

アイク「ぜえ…ぜえ…なんとか撒いた…。」

アイクは建物に寄りかかる。

アイク「此处で休もう…。」

黒子「お姉さまは一体どこにいるんでしょうか…？」

御坂を探す白井。

黒子「見つかりませんわね…。」

ウィッチ「どこにいるんでしょう…？」

大臣を探すウィッチ。

ウィッチ「…！不味いですわ…。」

見つけたのは…。

ハンター「…。」

ハンター…。

ウィッチ「戻らないと…。」

ハンターと距離を取る。

シグナム「此処にはいないようだな…。」

宮殿付近で大臣を探すシグナム。

シグナム「どうやら別の場所にいるらしい…。」

そこに…。

ハンター「…。」

ハンターが接近…。

シグナム「…！不味い…。」

逃げるシグナム。逃げた先に…。

スネーク「行くか…。」

スネーク…。

シグナム「ハンター来てるぞ…！」

スネーク「な、何だと!？」

シグナムにつられて逃げるスネーク。ハンターの標的は…。

スネーク「俺か!？」

スネークだ…。

スネーク「うお〜！」

ポン

スネーク 確保 残り 13人

スネーク「ミッションに行こうとした矢先に…。」

巻き添えを食らった…。

アイク「メール…スネーク確保！」

シグナム「巻き添えにしてしまった…。」

ミッション終了まであと1分半！

サタン「？あれは…。」

サタンが見つけたのは…。

大臣（演：KAITO）「此処からならいけるな…。」

大臣だ…。

サタン「！此処は…メールだな！」

サタンはメールを書く。

サタン「送信…！少しは役に立ったな…。」

ピリリ…ピリリ…。

なのは「？メール…？」

当麻「サタンってやつからだ！」

レムレス「何々…『今、宮殿前の道で大臣を見た。網鉄砲を持っている奴は向かってくれ。』」

フェイト「なるほど…行こう！」

ウィッチ「こっちですわね…。」

スバル「よし、行くぞー！」

マリオ「行くぞー！」

大臣（演：KAITO）「あともう少し…あと少しで…。」

フェイト「いた！大臣！」

大臣（演：KAITO）「何！？ならこっちから…。」

マリオ「残念だがこっちは逃げられないぞー！」

大臣（演：KAITO）「何！？」

ウィッチ「追い詰めましたわ！」

スバル「もう観念しろ！」

大臣（演：KAITO）「う…う…。」

美琴「その罪…自分で償いなさい！」

シグナム「よし…やるぞ…いつせーので…。」

全員「おりゃあああ…！！！」

大臣（演：KAITO）「うわあああ！……！」

大臣捕獲 MISSION CLEAR

大臣（演：KAITO）「くそ……。」「

兵士1（演：リンク）「あ！大臣が捕まってるぞ！」

兵士2（演：クロノ・ハラウン）「ありがとうございます！……ええこっちに来るんだな！」

大臣（演：KAITO）「くそおおお！……！」

シグナム「やったぞ！」

スバル「やりました！」

ウィッチ「良かったですわ！」

マリオ「やった！」

逃走者たちの協力によって大臣は捕獲された……。

ピリリ！ピリリ！

なのは「メール…ミッションクリア！」

当麻「『フェイト・T・ハラオウン、マリオ、ウィッチ、スバル・ナカジマ、御坂美琴、シグナムの活躍により大臣が捕獲されたため、ハンターの放出は無い。』良かった〜…。」

サタン「良かったぞ…。」

アイク「団結か…結成力がすごいな…。」

黒子「お姉さま…すごいですの！-」

シグナム「団結するとどんな壁も乗り越えられるものだな。」

マリオ「よし、このまま逃げ切ろう！」

6人「おー！」

ミッションをクリアした6人に…。

ハンター「…。」

ハンターが接近！

ウィッチ「ふ〜…ってハンター来ましたわよ！」

シグナム「何！？」

美琴「こんな時に……！」

ハンターに見つかってしまった6人。逃げ切れるのか！？

フェイト「クリアしたばっかなのに……！」

スバル「うわああああ……！！！！！！」

ゲーム終了まで35分02秒 残る逃走者13人

MISSION? 4 (後書き)

ハンターに見つかった6人。

果たして逃げ切れるのか!?

MISSION? 1 (前書き)

感想が20件に到達しました。

ありがとうございます！

ハンターに見つかった6人。

果たして逃げ切れるのか！？

MISSION? 1

ミッションをクリアした6人に…。

ハンター「…。」

ハンターが接近!

ウィッチ「ふ〜…ってハンター来ましたわよ!」

シグナム「何!?!」

美琴「こんな時に…!」

ハンターに見つかってしまった6人。

フェイト「クリアしたばっかなのに〜!」

スバル「うわああああ!!!」

ハンターが視界にとらえたのは…。

ウィッチ「来た〜!?!」

ウィッチだ…。

ウィッチ「嫌〜!?!」

ポン

ウィッチ 確保 残り 12人

ウィッチ「うう〜…どうして？」

復活したウィッチ、牢獄へ逆戻り…。

シグナム「はあ…はあ…撒いたか…？」

美琴「ハンターは撒けたようね…。」

なのは「メール…確保情報！」

マリオ「ウィッチ確保！？さっきミッションクリアしたのに！？」

レムレス「復活組がやられた…。」

サタン「あと35分ほどか…まだまだ長いな…。」

ゲーム終了まであと34分半。まだまだ先は長い。

サタン「この時間かもどかしいな…。」

ヴィータ「ミッションをクリアしたか…。」

先ほどのクリアメールを見ながらつぶやくヴィータ。

ヴィータ「こいつらミッションクリアしたらいい奴に見られるって
思ってるんだろ？ 偽善者ぶってるやつらばかりだから
…リーダーはいい奴だぜ？ リーダー以外のやつを言っているんだぞ
！」

アイク「今…12人か？ 結構減ったな…。」

現在はハンター3体に対し、逃走者は12人。

アイク「もうすぐ一桁か…。」

当麻「此処にしようか…。」

庭園の中にやって来た上条。

当麻「…あれ？ 誰がいる…。」

その誰かとは…。

レムレス「早く過ぎてくれないかな…。」

レムレスだ。

当麻「…何やってんだ？」

レムレス「うわあ！いきなり声出さないで…。」

当麻「お、すまん…。」

レムレス「ハンターこないか見張っているんだよ…。」

当麻「そうか…。」

合流した二人…。

スバル「此処まで来たら残りたいな…。」

先ほどのミッションに貢献したスバル。

ハンター「…。」

そこに近づくハンター…。

スバル「…あつ、ハンター…。」

ハンター「！」

気付かれた…。

スバル「不味い！」

ハンターとの距離を取るスバル。

ハンター「…？」

ハンターの視界から消えた…。

スバル「なんとか撒けた…。」

このまま逃走成功を果たせるか！？

シグナム「主はやてのためにも頑張らないとな…。」

森の中を移動中のシグナム。

ハンター「…。」

その近くに、ハンター…。

シグナム「しかしこの中は視界が悪いな…いつ出てくるかわからん。」

ハンター「…。」

シグナム「いったん戻るか…。」

ハンター「…！」

シグナム「んなつ!？」

ポン

シグナム 確保 残り 11人

シグナム「くそっ…。」

ヴォルケンリッターの将、此処で敗れる…。

フェイト「確保情報…シグナム確保…。」

ヴィータ「何!?!リーダー確保されたのか!？」

なのは「森の中…ってここじゃん!！」

美琴「絶対逃げ切ってやるわ!」

逃走成功に燃える御坂。

美琴「ハンター1体だけならいけると思うの。複数とかだとちよつと危険なのよね。」

サタン「しかしまだ30分以上もあるな…まだ何かあるかもな…。」

スタッフ「何がですか?」

サタン「ミッションとかだ。」

今宵「さっきのはびっくりしたが…一体何なんだ?」

先ほどの出来事のことを考える今宵。

今宵「あとで調べてみるか…よし、ミッション発動だ。」

そして、ミッションが発動…。

逃走者がいる王国に向かう一隻の船…。

通報部隊「…。」

ハンター「…。」

その船に、甲冑を着た9体の通報部隊と5体のハンターが乗っていた…。

今宵「よし…この間に調べるか…。」

そして今宵は先ほどの出来事を調べ始めた。

ピリリ…ピリリ…。

サタン「ミッション5…来たか…。」

ヴィータ「この王国に一隻の船が向かっている。『船?』」

なのは「『その船には9体の通報部隊と5体のハンターが乗っている。』」

アイク「『残り10分になるとエリア内に到着し、エリア内に放出される。』 そうしたら逃げ切るやつはいないんじゃないのか!?」

レムレス「『阻止するにはエリア内に設置されている船誘導装置のレバーを4人で下さなければならぬ。』 4人!?」

当麻「これ…放出されたらまずいんじゃないのか!?」

ミッション5 通報部隊とハンター放出を阻止せよ！

現在逃走者たちがいる王国に一隻の船が向かっている。

その船には甲冑を着た9体の通報部隊と5体のハンターが乗っている。

残り10分になるとエリア内に船が到着し、通報部隊とハンターを放出する。

通報部隊は3体一組で行動し、逃走者を見つけると笛を吹き、笛の音に気付いたハンターが確保に向かう。

放出を阻止するにはエリア内に設置された船誘導装置のレバーを4人で下さなければならぬ。

ただし、どこに設置されたかは逃走者たちが自力で探さなければならぬ。

当麻「どこに設置されたかは探さなきゃならぬのか!？」

レムレス「折角ハンター放出を阻止したのに…。」

美琴「そりゃ行くわよ!こんな逃げ切れるの!？」

フェイト「行こう!」

なのは「行くよ!」

スバル「もちろん行きます!」

黒子「行ってみますわ！」

マリオ「行くぞ！」

ウィータ「行かねえよ…！」

サタン「他のやつらが見つけたら行く…。」

逃走者たちに出されたミッション5！彼らはこのミッションをクリアできるのか！？

ゲーム残り時間29分21秒 残る逃走者11人

MISSION? 1 (後書き)

発動されたミッション5。

逃走者たちはクリアできるのか!?

MISSION? 2 (前書き)

ミッション5が発動。

果たしてクリアできるのか!?

アイク「つーか無視だな。舞台。」

すみません。最終ミッション全然思いつかなかったのです。

MISSION?2

現在逃走者がいる王国に一隻の船が向かっている。

その船には9体の通報部隊と5体のハンターが乗っている。

残り10分になるとエリア内に到着し、エリア内に放出される。

阻止するにはエリア内に設置された船誘導装置のレバーを4人で下さなければならぬ。

果たしてこのミッションをクリアできるのか!?

フェイト「どこにあるのかな...?」

船誘導装置を探すフェイト。

フェイト「ってかどんな形してるの!?!まずはそれが分からないと...」

スタッフ「ミッションどうします?」

アイク「行かない!」

ミッションに消極的なアイク。

スタッフ「何ですか？」

アイク「ハンター3体だしまだ11人も残っているし…。」

どうやら他力本願のようだ。

アイク「6人ぐらいになったら行ってみる…。」

なのは「誘導装置…。」

誘導装置を探すなのは。

なのは「…あつ。」

見つけたのは…。

なのは「不味い不味い…。」

見つけたのは…ハンターだ…。

なのは「ハンターいるなあ…。」

エリアを動けばハンターに見つかる可能性が高くなる！

当麻「今俺ら2人いるしあと2人見つければクリアできるんじゃないかねか？」

レムレス「そうだね。あとは装置を見つけないと…。」

合流している二人に…。

ハンター「…。」

ハンターが接近…。

当麻「うおっ、ハンター来た！」

レムレス「不味い不味い…！」

ハンター「！」

見つけた…。

レムレス「見つけた！」

当麻「不幸だあああ…！！！」

ハンターが視界にとらえたのは…。

レムレス「こっちに来た〜！」

スバル「全然見つからない…。」

ヴィータ「くっそ…誰も行ってねえのか…!？」

ミッションがクリアされていないことに腹を立てるヴィータ。

ヴィータ「どいつもこいつも役に立たねえな!早くしろよ…!」

黒子「見つかりませんの…お姉様も装置も…。」

ミッションに参加している白井。

黒子「全く…もうどうなっていますの!？」

美琴「逃走者が減っていくと不味いわね…。」

このミッションをクリアするには4人必要である。つまり逃走者が減って行くほどクリアしにくくなるのである。

美琴「早く見つけないと…。」

その近くに…。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

美琴「…！ハンター！」

ハンター「！」

見つかった…。

美琴「何でいつつもこんな時に見つかるのよ！」

驚異の身体能力で逃げる御坂。

ハンター「…？」

何と、ハンターを撒いてしまった。

美琴「はあ…はあ…撒けたようね…。」

サタン「なにも来ないな…。」

港町にたたずむサタン。

サタン「まだ余裕があるがクリアできなかつたら不味いぞ…！」

フェイト「不味い不味い不味い…。」

なのは「どこにもない…!」

スバル「どこにあるの!？」

船誘導装置が、見つからない。

シグナム「クリアできるのか？」

はやて「まず装置を見つけないとなあ…。」

ルイージ「そして4人で下げないといけないんでしょ？」

アリス「全員が協力しないとクリアできないよね…。」

アルル「参加してない人いるのかな？」

ルル「いるんじゃない?一人は…。」

カーバンクル「ぐぐ?ぐぐ!」

黒子「見つからないわ…。」

船誘導装置を探す白井。

白井、御坂と行動を共にする…。

当麻「あゝ…全然見つからない…。」

こちらにもミッションに参加している上条。

当麻「でも諦めるわけにはいかねえんだ!!」

船誘導装置を見つけれない逃走者たち。

果たしてクリアできるのか!?

ゲーム残り時間 23分21秒 残る逃走者 10人

MISSION? 2 (後書き)

フェイト「果たして逃走者たちはこのミッションをクリアできるのか!？」

アイク「あれ? 何でお前が言っているんだ? 作者はどうした?」

クルーク「さつきそこで作者が真っ黒に…。」

アイク「え…まさか…。」

クルーク「ハラオウンの所ハラオウンって書いていたから…。」

フェイト「何か言った?」

クルーク「いや、何も…。」

フェイト「ふふふふ」

アイク「(怖)。」

MISSION?3 (前書き)

挿絵やっている人すごいですね…。

とてもきれいだし…。

あんなの僕には作れませんね…はあ…。

MISSION? 3

未だに装置を見つけられていない逃走者たち。

このままでは13分後に通報部隊とハンターが放出されてしまう。

果たして、このミッションをクリアできるのか!?

フェイト「見つからない…!」

装置を探すフェイト。しかし、見つからない。

フェイト「どこにあるの…!」

アイク「早くクリアしてくれ…!」

ミッションに参加する気のない、アイク。

アイク「こんな所でハンターに捕まりたくない…生き残って逃げのびたい…!」

黒子「お姉様…見つかりませんの…。」

美琴「そつよねえ…どこにあるのかしら？」

こちらは装置を探す二人。

美琴「…！隠れて黒子！」

黒子「え…！？」

御坂が見たのは…。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

美琴「通り過ぎるまで待つて…。」

黒子「はい…。（お姉様がこんなに近い…。）」

ハンター「…。」

見つからずに済んだ。

美琴「行ったわ…。」

黒子「危なかつたです…。」

スバル「此処はどうか…。」

港町の端っこ辺りにやって来たスバル。

スバル「…！？これは…。」

見つけたのは…。

スバル「これって機械…まさか!?!」

スバルが見つけたのは船誘導装置。このレバーを4人で下げなければミッションはクリアされない。

スバル「皆にメールで位置を教えよう!」

サタン「…！ハンター発見…。」

ハンターを見つけたサタン。

サタン「離れようか…。」

その場から急いで離れる。

ピリリ…ピリリ…

サタン「なっ!?!」

ハンター「!?!」

突然、サタンの携帯が鳴った。ハンターはその音に気付き辺りを探し始める。

サタン「不味いな…此処にいると見つかる…。」

サタンはその場を離れて行き、ハンターに見つからずに済んだ。

サタン「はぁ…はぁ…ひやひやしたぞ…なんだ全く…。」

なのは「スバルからだ…。」

フェイト「『港町の端っここで誘導装置を見つけました!あと3人必要です!』」

マリオ「ついに見つけたのか!」

当麻「急いで行くぞ!」

サタン「端っこ…こっちか!?さっきハンターがいた場所じゃないか…今は無理だな…。」

ヴィータ「スバル良くやったな…早く行ってクリアしてくれ…!」

アイク「端っこ…此処から近い…よし、行くか!」

ミッションのために立ち上がるアイク。

アイク「早く行ってミッションをクリアしよう…。」

なのは「行くよ!」

ミッションに向かう高町。

ハンター「…。」

しかし、その近くにハンター…。

なのは「早く…早く…。」

ハンター「…。」

なのは「此处…!?!?」

ハンター「!」

見つかった…。

なのは「うわああ!?!?!ハンターいたああ!?!?!」

ハンターに見つかった高町。逃げ切れるのか!?

なのは「不味い不味い不味い!!!!!!」

角を使い逃げる高町。しかし、追跡がやむことは、無い……。

なのは「嫌あああああ!!!!!!!!!!!!」

ポン

高町なのは 確保 残り 9人

なのは「うわあゝ……最悪……。」

エース・オブ・エースが、散った……。

フエイト「『森の中にて高町なのは確保。残り9人。』なのは捕まった!!!」

マリオ「不味い……一桁行つた……。」

ヴィータ「何やってんだよ……エースさんよお……。」

当麻「端っこ……此処か?」

船誘導装置に着いた上条。

スバル「あ！当麻さん！」

当麻「これが誘導装置か？」

スバル「はい、あと二人必要なんですが…。」

当麻「そうだな…。」

スバル「でも此処にいますと見つかります、近くの草むらに隠れましょう！」

当麻「お、おう！」

二人は誘導装置近くの草むらに隠れる。

サタン「…行ったか？」

先ほどのハンターがいないかを確認するサタン。

サタン「…よし、行くか…。」

ミッションに向かう…。

ハンター「…。」

が、その近くにハンター…。

サタン「…うお！？」

その場を引き返すサタン。

サタン「まだいたのか…。」

思うように動けない…。

美琴「私たちが行けばあと一人だけになるから…。」

黒子「早く…。」

二人もミッションに向かう！

ハンター「…。」

ハンターが…。

アイク「もうすぐだな…。」

アイクに接近…。

ハンター「…！」

見つかった…。

アイク「…な！？ハンターだと！？」

急いで逃げるアイク。

アイク「嫌だああ…！！やめろおおお…！！！」

ポン

アイク「くっそ…また捕まった…ああ…。」

アイク、またしても逃走成功できなかった…。

アイク 確保 残り 8人

ピリリ…ピリリ…。

マリオ「アイク確保！？スマブラメンバーは俺だけか！？」

当麻「捕まった〜…。」

フェイト「不味い…どんどん減っていく…。」

現在装置には二人だけがいる。

果たしてミッションクリアできるのか！？

ゲーム残り時間 1 6 分 3 4 秒 残る逃走者 8 人

MISSION?3 (後書き)

挿絵やってみようと考えてみたんですが全く分からない。

その前にみてみんなのやり方が分からない。

だから多分また逃走中の小説を書くことになって挿絵無しだと思
う…。

MISSION? 4 (前書き)

ふう…逃走者の皆は頑張っているかな…ん？

3人「突撃いいいい！！！！！！」

どどどどどどどど！！！！！！

…な、何だあれは…？

どどどどどどど！！！！！！

ん？

2人「誰か止めてくれえええええ！！！！！！」

どどどどどどどど…。

…何だっ たんだ一体？

しかし…お返しをしてくれた方に返事は書いたが…お返しが届くの
ゲーム終了した後とは…。

MISSION? 4

ミッション終了まであと6分30秒に迫っている。

このままクリアできないとエリア内に5体のハンターと9体の通報部隊が放出される。

果たしてミッションをクリアできるのか!?

フェイト「はあ…はあ…。」

船誘導装置のある場所まで急ぐフェイト。

フェイト「これ放出されたら…逃げ切る人いないでしょ…?だからクリアしないと…。」

ヴィータ「まだクリアメール来ねえよ…!」

メールが来ないことに焦るヴィータ。

ヴィータ「誰か行けよ…本当に…!」

その近くに…。

ハンター「…。」

ハンター「…。」

ヴィータ「くそっ…！不味い…。」

急いで身を隠すヴィータ。

ヴィータ「何で来るんだ…！？」

ハンター「…。」

ヴィータ「早く通り過ぎろ…！」

ハンター「…。」

見つからなかったようだ…。

ヴィータ「ふう…危なかったぜ…。」

ハンター「…。」

しかし、一難去ってまた一難…。

ヴィータ「全く…ってまた来た！？」

ハンター「…。」

ヴィータ「早く逃げないと…捕まる!」

ハンター「…!」

見つかった…。

ヴィータ「くそっ!気付かれた…!」

角を曲がり、距離を広げるヴィータ。

ハンター「…?」

何と、ハンターを撒いてしまった。

ヴィータ「はあ…はあ…ざまあみやがれってんだ!」

サタン「ハンター…どこかに行くな…。」

ハンターがサタンのいる場所から離れて行っている。

サタン「…え?ちょっと待てよ?」

しかし、サタンはあることに気付く。

サタン「あっちの方向は誘導装置がある場所じゃないか!?!」

そう、ハンターは船誘導装置のある場所に向かって行っている。

サタン「くそっ…此処まで来たと言つのに…無理だ…。」

サタン、ミッションを諦めた…。

ハンター「…。」

そのハンターが…。

スバル「誰も来ませんね…。」

スバルと上条に接近！

スバル「…誰か来ましたよ…。」

当麻「あれ…ハンターじゃないか？」

スバル「ほんとですか！？早く逃げましょう！！！」

ハンター「…！」

二人の姿をハンターがとらえた！

当麻「不味い！気付かれた！」

スバル「逃げましょう！！！」

ハンターがとらえたのは…。

当麻「不幸だあああ！……！！！」

上条だ…。

当麻「うわあああ！……！！！」

驚異の身体能力で逃げる上条。

ハンター「……？」

そしてハンターを撒いてしまった。

当麻「はあ…はあ…不味い…装置から離れた…。」

しかし、装置から大分離れてしまった。

当麻「早く戻らないと…。」

スバル「不味いです…早く戻りましょう！」

スバルも、装置の場所に戻る！

マリオ「あれが…装置か？」

船誘導装置を見つけたマリオ。

マリオ「此処で来るのを待っていていればいいのか…ってかスバルはど
こに行っただ？」

スバルはハンターに追われ、此処から離れた場所にいる。

マリオ「何かあったかもしれないから此処で待っておこうか…。」

美琴「早く行かないと…。」

黒子「お姉様！もうすぐ放出ですわよ！」

美琴「それほんと！？急ぐわよ！！」

黒子「はい！！」

船到着まであと2分！

なのは「あと2分!?不味いんじゃない!？」

レミリア「しかし…誰も行っていないのかしら…。」

はやて「それは無いと思うで。ミッションに勇敢に参加している当麻君や美琴ちゃんとかいるやん。」

シグナム「あと、スバルやマリオも積極的に参加していたぞ。」

シェゾ「…ところで聞きたいが…。」

シグナム「何だ?」

シェゾ「この中で…ヴィータってやつを見たやついるか?」

シャマル「そう言えば…見ていませんね…。」

レムレス「僕も橋を渡るときにしか見かけていないんだけど…。」

十六夜「どこにいるんでしょうか?」

スネーク「ミッションに参加せずに隠れ続けていたり…。」

シグナム「まさか…。」

ヴィータ「はつくしよん!…風邪か?」

フェイト「あと2分!? 不味いって不味いって!!」

あと2分と言うことを知り、焦るフェイト。

フェイト「早く早く!!」

ハンター「…。」

しかし、近くに黒い影…。

フェイト「はあ…はあ…って!？」

ハンター「…!」

見つかった…。

フェイト「きゅー!!」

ポン

フェイト・T・ハラウン 確保 残り 7人

フェイト「えっ…? 此处で捕まる…?」

サタン「不味い…また一人捕まった…。」

スバル「フェイトさんまで…!!」

当麻「また一人捕まった!」

マリオ「…くそっ!もうすぐ1分だ…!」

ハンターと通報部隊放出まであと1分!

マリオ「まだ時間はある…早く来てくれ!」

スバル「はあ…はあ…着いた!」

装置に着いたスバル。

マリオ「お!あと二人誰かいないか!?」

スバル「多分当麻さんが来てくれて…あと一人…。」

マリオ「くそっ!このまま放出されるのか!?」

放出まであと30秒！

当麻「不味い不味い…。」

サタン「今から行っても間に合うか？」

美琴「早くしないと…。」

放出まであと20秒！

黒子「不味いですわ！」

サタン「もう…無理だな…。」

当麻「やばい…！」

放出まで…。

6
⋮
。

7
⋮
。

8
⋮
。

9
⋮
。

1
0
⋮
。

1
⋮
。

2
⋮
。

3
⋮
。

4
⋮
。

5
⋮
。

牢獄

アルル「あー！船が来たよー！」

シヤマル「出るわ…あれ…！」

ガタン！！

ダダダダ…。

MISSION 失敗 ハンター5体 通報部隊9体放出

アリス「出ちゃったよー！？どうなるの！？」

フェーリ「これはかなり厳しい状況になったわね…。」

はやて「これは不味いで…。」

魔理沙「まさか…全滅か…！？」

サタン「メール…ミッション失敗…。」

スバル「『エリア内にハンター5体が放出され、8体となり、9体の通報部隊が放出された。』」

当麻「…くっそ…。」

グイータ「何してんだよあいつら…！逃げにくくなっただじゃねえか…！…！」

マリオ「不味い状況になったぞこれは…。」

黒子「…これは…。」

美琴「全滅は避けたいわね…。」

ミッション失敗により、ハンター5体と通報部隊9体が放出された！

この厳しい状況の中、逃げ切るものは現れるのか！？

ゲーム残り時間9分50秒 残る逃走者7人

MISSION? 4 (後書き)

逃走者7人に対し、ハンター8体&通報部隊9体となった。

この中を逃げ切れるものは現れるのか!?

残り10分

ミッションを失敗したせいでハンターの数に8体に、そして通報部隊9体が放たれた。

現在ゲーム残り時間は9分50秒。

この状況を逃げ切るものは現れるのか!?

美琴「これは不味い状況になったわね…。」

スバル「ハンター8体って…!」

当麻「見つかったら即終わりじゃねえか!…!」

サタン「…うお…通報部隊…。」

通報部隊を見つけ、急いで隠れるサタン。

サタン「はあ…はあ…シャレにならないぞこれは…。」

ヴィータ「本当に不味い状況だこれは…!」

背を低くして辺りを見渡すヴィータ。

ヴィータ「でも…賞金を持ちかえるのはこのあたしだ！」

しかし、賞金は意地でも持ち帰りたいようだ。

黒子「お姉様といたん分かれたもの…どうしようも有りませんわ…。」

エリア内を移動する白井。

黒子「…！通報部隊ですわ…。」

通報部隊を見つけた。

黒子「はあ…はあ…本当に不味いですわ…。」

サタン「早く時間過ぎてくれ…！」

港町にいるサタン。

通報部隊「…。」

しかし、その近くに通報部隊…。

サタン「はあ…アルルにいい所を見せたいものだ…。」

通報部隊「…！」

ピーーっ！！！！

見つかった…。

美琴「！誰が見つかったようね…。」

マリオ「不味い…こんなに大きいのか笛の音って…。」

サタン「んな！？通報部隊！？不味いぞ…！」

急いで逃げるサタン。

ハンター「…！」

ハンター？「…！」

ハンター？「…！」

しかし、その近くにいたハンターがサタンの確保に向かう。

サタン「はあ…はあ…何い！？」

ハンター3体に…見つかった…。

サタン「ぐぎゃあああ！！！！！」

ポン

サタン 確保 残り 6人

サタン「こ、この私が…こんな所で捕まるとは…アルル…。」

闇の貴公子、通報部隊とハンターによって敗れる…。

マリオ「メール…サタン確保！」

スバル「不味いよ…ぷよぷよ組全滅した…。」

ヴィータ「あいつも捕まったか…そりゃそうだ！ミッションにも行かず隠れてばかりいるからだ！」

人のことを言えないヴィータ…。

当麻「…あれって…。」

当麻「また捕まった…。」

美琴「『森の中にて上条当麻確保。残り5人。』」

スバル「どんどん捕まって行っている…！」

マリオ「あれ？男で残っているのって俺だけ？」

牢獄

当麻「ハンター多すぎるよ…。」

サタン「通報部隊に見つかった…。」

アルル「まあまあ二人とも、元気出してよ。」

リデル「それにしても通報部隊ですか…厄介ですね…。」

レムレス「見つかったらもう終わりと考えていいよねこの状況の中では。」

アイク「全滅だけは避けてほしい…。」

シグナム「そうだな…誰かは逃げ切ってほしいな…。」

ゲーム終了まであと7分！

牢獄

フエイト「あと5人！」

なのは「あと残っているのって誰！？」

アイク「えっと…ヴィータとスバルとマリオと黒子と美琴だ。」

シエゾ「ほとんど女子だ…！」

ラフィーナ「まだ復活組が2人残っていますわ…！」

ウィッチ「…しゅん。」

魔理沙「行ける！行けるぞ！」

レミリア「逃げ切れる人が出てほしいわね…。」

黒子「此処まで来たら逃げ切りたいですわ…。」

一度は確保され、復活した白井。

ハンター「…。」

その近くに、ハンター…。

黒子「…！ハンターいますわ…。」

ハンターを見つめ、逃げる白井。

ハンター「…！」

しかし、見つかった…。

黒子「不味いのですの…見つかりましたの…！」

逃げる白井。

ハンター？「…。」

しかし、逃げた先に別のハンター…。

黒子「こっちに行きますわ！」

ハンター？「！」

黒子「なっ！？」

ポン
白井黒子 確保 残り 4人

黒子「此处で捕まるとは…不覚ですわ…。」

美琴「不味い…黒子も捕まった…。」

マリオ「残るは4人か…。」

スバル「捕まりたくない…！」

ヴィータ「もうすぐ逃走成功だ…！」

残るは4人。果たして、逃げ切るものは現れるのか！？

ゲーム残り時間6分21秒 残る逃走者4人

残り10分(後書き)

逃走者4人に対し、ハンターは8体。

そして、エリア内には9体の通報部隊…。

果たしてこの脅威を乗り越えることはできるのか!?

残り6分(前書き)

逃走者4人はこの状況を逃げ切れるのか!?

りゅうとさん、差し入れありがとうございます。

3人に届けておきます!

ヴィータ「おい、あたしの分は無いのか!?!」

あるわけねえだろあんなこと言って…。

ヴィータ「な、何だとー!?!」

残り6分

ゲーム時間が7分を切った！

現在の逃走者はヴィータ、スバル・ナカジマ、マリオ、御坂美琴の4人！

果たしてこの圧倒的不利な状況の中、逃げ切るものは現れるのか！？

美琴「絶対に逃げてやるわよ…。」

此処まで、ミッションに果敢に挑んできた御坂美琴！

マリオ「すごいハンター見かける…やっぱ8体だからな…。」

復活ゲームで復活し、唯一の復活組となったマリオ！

ヴィータ「賞金持ち帰ってやるぞ…！」

此処まで、隠れて生き延びて来たヴィータ！

スバル「みんなの分も頑張らないと…！」

最後のミッションに果敢に挑んだスバル・ナカジマ！

スタッフ「此処まで残れると思っていました？」

マリオ「正直言つとこの状況の中、良く残っていると思っている。」

現在、庭園の中に隠れているマリオ。

マリオ「…ううお…ハンターいる…。」

しかし…。

ハンター「…。」

そこにハンターが接近…。

マリオ「マジか…これはマジでやばいぞ…。」

マリオ、絶対絶命…。

ヴィータ「ミッションに挑んでいった偽善者なんか賞金を持ちかえらせる資格はねえな！あたしみたいなやつが持って帰るんだ！捕まえられるなら捕まえてみる…不味い…。」

ヴィータもハンターを発見…。

ヴィータ「不味い…近い…。」

マリオ「早く行ってくれ…！」

ヴィータ「逃げ切りてえのによお…！」

ハンターと対峙する、二人…。

ハンター「！」

ハンターが逃走者の姿をとらえた！見つかったのは…。

ヴィータ「不味い…！見つかった…！」

ヴィータだ…。

ヴィータ「うわあ！うわああ…！うわあああ…！………！」

ポン

ヴィータ 確保 残り 3人

ヴィータ「ちょ…嘘だろ!?こんな所で捕まるなんて…嘘だろおおお!!?!?!?!?!」

現実を受け止められないヴィータ。しかし、これが現実だ…。

マリオ「早く行ってくれ…!」

ハンターが近くにいて、動けないマリオ。

マリオ「くそっ…これじゃいつ気付かれても…!」

その時…。

ピリリ!ピリリ!

マリオ「うわっ…バカ…!」

マリオの携帯が鳴った…。

ハンター「!?!」

マリオ「音に気付かれた…。」

ハンターはあたりを搜索する。

マリオ「こっちの方に逃げよう…。」

マリオはハンターの視界に入らないように移動する。

ハンター「…。」

見つからなかったようだ…。

マリオ「危なかった…。」

これで残るは3人…。

ゲーム時間は5分を切った！

スバル「もう5分切りましたよ…これいけますよ…！」

しかし、ハンターに捕まれば賞金は、0。此処まで積み上げて来た賞金も無駄となる。

美琴「絶対に逃げ切ってやるわよ…！私のプライドにかけて…！」
逃げ切りの燃える御坂。

通報部隊「…。」

しかし、近くに通報部隊…。

美琴「此处で逃げ切ったらと…！通報部隊！」

通報部隊「…！」

ピーーーーっ…！！！！

見つかった…。

美琴「不味いわ！急いでこの場を…。」

しかし…。

ハンター「…！」

近くにいた4体のハンターが確保に向かう！

美琴「…！ハンターいたわ…っ！こっちからも…！」

ハンターに囲まれてしまった…。

美琴「くっ…此処までなのね…。」

ポン

御坂美琴 確保 残り 2人

美琴「通報部隊に見つかったのはいけなかったわね…。」

その場にへたり込む御坂。

マリオ「あと二人…あと二人だつて…。」

スバル「美琴さんも捕まりました…。」

レミリア「行ける！いけるわよ！」

ルイージ「頑張れ兄さん！！！」

これで残るは2人…。

果たして、逃げ切れるのか！？

ゲーム残り時間 4分32秒
残る逃走者 2人

残り6分(後書き)

これで残るは2人…。

その運命は!?

残り4分半（前書き）

アイク「おーこれ面白いな…。」

アイク「何見ているんだー？

アイク「え？これさ。」

ああ、りゅうとさんの小説の「ゲームキャラもアニメキャラも全員逃げて戦って大暴れ！逃走中！」だね。

アイク「とても面白いんだよ。これはオススメだな。」

僕もこの小説はとても大好きです。

りゅうとさんの小説、「ゲームキャラもアニメキャラも全員逃げて戦って大暴れ！逃走中！」オススメです、ぜひ見て下さい！

ちなみに他の小説ではヴィータが良くフルボッコされているようですが、僕の小説ではありません。

理由は見たらわかると思いますが誰もヴィータの行動を把握できていないからです。（少し前の話の牢獄内での話を見たらわかると思います。）

残り4分半

残る逃走者は2人となった！

逃走者はスバル・ナカジマ、マリオの二人。

ゲーム時間はあと4分30秒。

果たして、この二人は逃げ切ることができるのか！？

マリオ「残り4分半……。」

スバル「逃げ切りたいけど……ハンター8体もいるからなあ……。」

牢獄

レミリア「行ける！行けるわよ！」

当麻「メール来てないよな！？」

シエゾ「確保情報は来ていないぞ！」

黒子「行けますわ！」

サタン「全滅するなよ…。」

ヴィータ「しかしハンター8体と通報部隊9体もいるんだろ？しかもあと4分だし…。」

シャマル「そんな縁起の無いこと言わないでよ！…！」

ヴィータ「だ、だってよお…。」

シグナム「うむ…本当に現実に起きてほしくないな…。」

マリオ「逃げ切る…絶対逃げ切る…。」

逃げ切りの執念に燃えるマリオ。

マリオ「もう捕まりたくないぞ…。」

スバル「もう此処まで来たら逃げ切りたいよ…。」

現在庭園にて身をひそめるスバル。

スバル「本当に危ないや…。」

マリオ「1番最初に捕まったからにはその汚名返上したいよな…。」

宮殿付近にいるマリオ。

ハンター「……。」

しかし、ハンターが接近……。

マリオ「ふう……ってハンターかよ!？」

ハンター「!」

見つかった……。

マリオ「不味い不味い!!」

ハンターを見つけ、庭園に逃げ込む……。

スバル「……あれマリオさんだよな……不味い……ハンター連れてきてる……。」

マリオ、スバルが隠れている庭園に逃げ込む。

マリオ「うわああ!!!!」

スバル「不味い……!マリオさんが捕まる……!」

マリオ「嘘だああ!!!!!!」

ルイージ「兄さんも捕まったか〜」。

アリス「復活組がやられた〜!」

レムレス「じゃあ残っているのは〜」。

シェゾ「スバル・ナカジマだ!」

なのは「すごい!」

アミティ「逃げて〜!」

シグ「頑張れ〜」。

フェイト「がんばれ〜!」

これで残るは〜。

スバル「マリオさん確保〜ってことは〜」。

スバル・ナカジマ〜。

スバル「あたし一人〜」。

ただ一人!

現在ゲーム残り時間は2分！

賞金は94万8000円に達した！

逃げ切れば賞金96万円！

しかし、捕まれば、0…。

此処まで積み上げて来た賞金も0となる！

マリオ「行けー！スバルー！！」

シェゾ「ハンターなんかには負けるなー！！」

スバル「もうあたし一人でしょ？そうになったら逃げ切らないと…。」

ハンター「…。」

通報部隊「…。」

しかし、ハンターと通報部隊が接近…。

スバル「…不味い…。」

通報部隊「！」

ピーーっ！！！！

スバル「うわああ！！！！」

見つかった…。

スバル「不味い！」

近くにいたハンターが確保に向かう！

スバル「はあ…はあ…って前からハンター！？」

スバルが逃げた先に別のハンター…。

スバル「不味い…。」

挟まれた…。

スバル「どうしよう…。」

スバルは立ち止り、2体のハンターと対峙する。

スバル「こうなったら…この手だ…！！」

ダッ！

ハンター？「！」

スバルは前にダッシュし、前のハンターの右側を通り抜けようとする。

スバル「でも…本当は…こっちだ！」

タツ！

ハンター？「!?!」

しかし、スバルは機転を利かし、前のハンターの左側を抜けた。

スバル「よし！」

前のハンターはついていけず、その場でこける。

ハンター「…。」

しかし、後ろからもハンターが迫る…。

スバル「不味い…不味い…うわあああ!!!!!!!!」

ポン

スバル「通報部隊に見つかってハンター2体に囲まれた…。」

美琴「うわぁ、それは最悪ね…。」

スバル「はぁ…。」

レミリア「そう落ち込まないでよ。次回があるかもしれないし。」

フェイト「本当にあるかは謎だけどね…。」

マリオ「じゃああれ、言いますか。」

フェイト「そうだね。」

なのは「せーの…。」

全員「どうも、ありがとうございました…!!…!!…!!」

残り4分半（後書き）

ふう…宣伝できた…。

りゅうとさん、本当にありがとうございます。

アイク「俺からも本当にありがとうございます。」

次回はゲームが終わったあとの逃走者たちを覗く&ハプニングと事件発生!?

ゲスト&事件発生(前書き)

今回りゅうとさんからの許可を得てあの5人が出演します。

そして僕の逃走中すべてに逃走者として参加しているアイク・上条
当麻・御坂美琴にある危機が…。

ゲスト&事件発生

牢獄

ティアナ「全滅かー…。」

シグナム「そう落ち込むな。また次回頑張ればいいさ。」

レムレス「あ、スタッフさん…ええと…はいはい…。」

アリス「なんて言ってるの?」

レムレス「僕たちに差し入れがある見たい。」

アリス「差し入れ…?」

そして、牢獄の皆に（一人除く）りゅーとさんからの差し入れの中身は秋の味覚がぎっしり詰まったコンポート入りの手作りパイが渡された。

なのは「おいしーい!」

はやて「これはおいしい味やなあ…。」

アルル「すごい。」

カーバンクル「ぐっぐー!」

アルル「あ、カーくんも？」

カーバンクル「ぐっぐぐ！！！」

十六夜「ああ…紅茶でも入れて味わいたいですね…。」

アイク「本当においしい…。」

レムレス「それと…マリオと美琴とスバルにスペシャルアイスだつて。」

マリオ「アイス…？」

スバル「わゝあたし大好きなんですよゝありがとございますゝ！」

レムレス「えつと…ええ！？」

マリオ「何だ？」

レムレス「そのアイス1個800円だって！」

マリオ「マジか！？」

美琴「そんなに高いものを…。」

ヴィータ「ちよつと待て！」

他の皆「え？」

牢獄に向かってパイを投げ、そのパイが見事、上条に当たった。

美琴「ちょ、いきなり何するのよ!?!」

ネス「どんどん行けー!?!」

そして、パイをどんどん投げる。

霊夢「あなたたち! いい加減にしないへぶっ!?!」 ベチャア!

ヴィータ「うお!?!」 ベチャア!

インデックス「はむっ!」 パクっ!

インデックスは食べている。

インデックス「さっきのとは比べるとあまりおいしくない…。」

ヤンリン「悪かったな!」

シエゾ「うごお!?!」 ベチャ!

フラン「ぎゃあ!?!」 ベチャ!

ルイージ「むぶう!?!」 ベチャア!

どんどん投げているがそのほとんどが不幸體質の上条に当たっている。

シヤマル「ヴィータあああああ!!!???」

そして、声にならない悲鳴をあげ、倒れた。

ネス「いえーい！これで笑いを取れたはずだよね！」

全員「どこがだあああああ!!!!!!」

ヤンリン「何だよー…乗り悪いなー…」

ネス「こうなったら…もつと…」

二人「やめろおおお!!!!!!」

すると、二人の誰かがやってきて、3人を止める。

ウルフ「何してんだお前ら!!!」

リンク「あれだけ関係無い人に迷惑かけるなって言っただろ!!!」

ウルフとリンクだ。

ウルフ「ああもうこんなパイまみれにしてー…」

リンク「本当に皆さんすいません！こいつらが迷惑をかけてすみません!!!」

ヤンリン「何で誤ってんだよー。」

ネス「うゝん…此処はもつと面白くした方が…」

ウルフ&リンク「やめんかあああああ!!!!!!!!!!!!!!」

「……………」

二人「!?!?!」

背後からただならぬ殺気を感じた二人は振り返るといつの間にか牢獄から出ていたルルーとフェイトとシグナムと十六夜と黒子とフェーリとアリスとスバルだった。

ルルー「あなたたち…サタン様の顔をパイで汚したことを覚悟なさい…!!」 「……………」

フェイト「なのはの顔をあんな風にしちゃダメだよ?これは君たち全員 O H A N A S H I が必要みたいだねえ?」 「……………」

シグナム「お前ら…覚悟はできてるな…?」 「……………」

十六夜「どこからやってあげましょうか…?」 「……………」

黒子「お姉様の仇…!」 「……………」

フェーリ「どこまでもどこまでも呪ってやるワ…!!」 「……………」

アリス「五寸釘五寸釘…。」 「……………」

そして、この部屋の中には僕の逃走中にすべて参加しているアイク、
上条、御坂がいた。

美琴「3回連続参戦か…。」

当麻「いつつも惜しいんだよね。あとちょっと言う所で…。」

アイク「まあ、諦めなければいつかは達成できるぞ。」

当麻「…そうだな…。」

美琴「よし、じゃあ次回も頑張るわよー！」

二人「おおー!!」

此処は…逃走者がいた場所とは別の場所…。

?「あの3人がそうか…よし、お前ら行け。」

?「かしこ参りました。」

当麻「さて、行くか…。」

?「ちょっと待って下さい。」

当麻「へ?つてなっ!？」

美琴「キヤア!!」

アイク「ぐわあ!!」

3人は後ろに当然現れた謎の男たちによって捕まってしまった。

美琴「な、何よあなたたち…!!」

?「ふっ、悪いな…これから我らの計画の生贄となっていたたく。」

アイク「誰になるかそんなもん…!」

?「…なら仕方がない…。」

すると、男たちは懐からハンカチを取り出し、3人の顔にかぶせた。

美琴「!?!?こ、これは…。」

当麻「ま、まさか…。」

アイク「クロク…ホル…ム…。」

すると、3人は気を失った。

? 「…よし、戻るぞ。」

? 「はい。」

3人の謎の男たちは3人の逃走者と一緒にその場から消えた。

ガチャ

インデックス「とうまー帰ろー…とうま?とうまー。」

そして、コントロール室…。

ビーン!ビーン!

月村「!?!?な、何だ!?!?これは!?!?」

今宵「つ、月村さん!」

月村「どうした!?!?」

今宵「ハンターの機密情報が…コピーされました!」

月村「何だと?!?!?実はこちらにも逃走者3人が謎のやつらによって連れて行かれた…。」

今宵「えっ?!?!?何でそんなことを…。」

月村「わからん…とりあえず戻るぞ！」

今宵「はい！」

月村「何か情報は無いのか…！？」

今宵「今調べています…これは！？」

月村「何だ？」

今宵はあるファイルを見つけた。そのファイルとは…。

今宵「『ハンターX計画』…。」

月村「何だそれは！？調べてみる！」

今宵「はい！」

今宵は、ファイルを調べてみようとするが…。

今宵「ダメです！ロックがかかっています…。」

月村「何か手は無いのか…。」

月村と今宵はその場で黙り込んでしまった。

月村「私は逃走者の行方を調べる！」

今宵「わ、わかりました！」

そう言うと、月村は部屋を出て行った…。

今宵「何でこんなことが…？やつらは一体何を考えて…。」

その時、月村が部屋の中に入って来た。

月村「今宵！あの3人の逃走者が連れ去られた場所が分かった！」

今宵「どこですか！？」

月村「ここだ。」

今宵「え…！？でもここは…。」

月村「ああ、そんなの分かっている。私たちでは手のつけられない場所だ…。」

今宵「なら、どうすれば…。」

月村「…そうだ、逃走者たちに助けてもらおうしかない…。」

今宵「逃走者たちに！？それはあまりにも危険すぎます！」

月村「わかっている！だが…こうするしか手が無いんだ…。」

今宵「月村さん…。」

月村「だが、今度の逃走中は…今まで通りだとダメだな…。」

今宵「どうすれば…。」

月村「…彼らにも、参加してもらおうしかないか…。」

今宵「彼ら…？あ、あの人たちですか…。」

月村「今宵、今すぐにゲームの準備を整えてくれ！こっちはファイ
ルなどのことを調べる！」

今宵「わかりました！」

そして、今宵はゲームの準備を整えていった…。

ゲスト&事件発生(後書き)

まさかの事態…。

3人の運命は…。

「挨拶&少しお知らせ」(前書き)

逃走中の番外編を楽しみにしていた皆様、すいません。今回はやらない方針です。

理由は作者がもう力尽きているので。本当に申し訳ございません。

「挨拶&少しお知らせ

どうも、作者のizumiです。

今回で3作目となる今回の逃走中、いかがでしたか？脱字&誤字の多さや地の分の手さは全く変わっております。

それでも見てくれてとても嬉しいです。

今回は差し入れとかゲスト出演とかしていただいて本当に感謝です。っばいです。

今回も逃走者がどこで捕まるとか全くそう言うのは計画していませんでした。

こんなノープラン（ただ、エリアとかドラマとミッションについては大体決めておりました。）で始まった3作目も本当に大丈夫かと思っただんですが皆さまの応援で此处まで来れました。

本当にありがとうございます。

感想もたくさんいただいて本当に嬉しい気持ちです。

では、3作目ももうすぐ完結です。

次回も見てくれると本当に嬉しいです。

ではまた皆さん、次回で…。

…おおっと、サブタイトルのお知らせですか？

実は第4弾ではあることを企画しておりまして…。

その内容については後日、活動報告にて報告いたします。

では、また…。

「挨拶&少しお知らせ（後書き）」

次回、第4弾の逃走中を少しだけ…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7073x/>

僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！～王国に迫る危機～

2011年11月24日23時50分発行